



ジャトコ サステナビリティレポート
2023

Jatco

編集方針

当サステナビリティレポートは、お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域社会などジャトコのすべてのステークホルダーのみなさまを対象としています。ジャトコのサステナビリティ活動への継続的な取り組みをご理解いただくとともに、みなさまからのご指摘を新たな課題発掘への手がかりとし、今後の取り組みに活かしていく予定です。ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

<アンケート>

<https://forms.office.com/r/32KDqbwgJn?origin=lprLink>



参考ガイドライン

「GRI（Global Reporting Initiative）スタンダード」

報告対象期間

2022年4月～2023年3月まで

報告対象範囲

ジャトコ株式会社および国内・海外連結子会社を対象としています。

報告サイクル

年次報告として毎年発行（前回は2022年10月）

発行年月

2023年12月

発行責任部署および問い合わせ先

経営企画部、グローバル広報部

https://www.jatco.co.jp/inquiry/agreement_other.html

目次

CEO メッセージ	3
-----------	---

ジャトコについて

企業情報	6
企業理念	7
価値創造のあゆみ	8
目指す姿	9
コア技術	10

サステナビリティマネジメント

ジャトコのサステナビリティ	12
---------------	----

環境：持続可能な地球環境への貢献

環境マネジメント	15
脱炭素化の推進	22
クルマの電動化への貢献	27
循環型社会の構築	30
大気・水資源・土壌保全	35
環境コミュニケーション、生物多様性	38

事業：モノづくりを活かしたイノベーション

移動の可能性を拓けるソリューション	41
エネルギー効率の追求	43
モノづくりの考え方	44

社会：地域社会との共生および発展への貢献

コミュニティの発展	48
社会貢献活動	49

人的資本：ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上

ダイバーシティ&インクルージョン	52
人財育成	53
労働安全衛生	56

事業基盤：誠実な経営と事業基盤

信頼される品質	60
人権	64
持続可能で責任ある調達	65
ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス	67
ステークホルダーエンゲージメント	71
災害対策（物理的ハザード）	72
情報セキュリティ	74

生産拠点別環境データ

生産拠点別環境データ	76
------------	----

GRI スタンダード対照表

GRI スタンダード対照表	80
---------------	----

CEO メッセージ

サステナビリティ経営を強化し、人々の、社会の、地球の未来に貢献します

ジャトコは、サステナビリティを企業活動の中核として位置づけ、当社がステークホルダーのみなさまから信頼される企業として、持続的に成長するために欠かせないものと考えています。

気候変動や資源依存、人権に関わるさまざまな問題等、世界は多くの課題に直面しています。それらの課題解決に向けて、企業としての役割を果たしながら、ステークホルダーのみなさまに多様な価値を提供するための取り組みを進めています。

その基本になるのは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拓く」という私たちのパーパスです。自動車用トランスミッションメーカーとして長年培った独自の技術を活かして新たなモビリティの可能性に挑戦し、お客さまや社会に価値ある商品やサービスを提供することによって、移動がもたらすより自由で豊かな社会の発展に貢献していきます。

大きな柱の一つは、クルマの電動化への貢献です。気候変動は、世界の多くの企業が直面する重大な社会課題の一つです。ジャトコは、ガソリン車用オートマチックトランスミッションの専門メーカーとして、常に製品の効率を追求し、燃費が良い環境性能の高い商品を提供してきました。今後は、電動車用パワートレインの領域でも、当社独自の技術を活かした、伝達効率や静粛性、エネルギーマネジメント等において、競争力の高い電動パワートレインを広く社会に提供することで、電動車両の価値向上と、電動車両の普及によるグリーンで豊かな社会の実現に貢献していきます。商品の市場投入は来年度の予定ですが、電動パワートレインの開発・生産体制を強化しており、2030年には電動車両向けユニットの年

間生産台数500万台を目指します。

また、カーボンニュートラルは当社にとっても重要なテーマです。開発、生産のプロセスや物流等、バリューチェーン全体で、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを全力で進めています。本社がある静岡県富士市とは、ゼロカーボンシティの実現に向けたパートナーシップ協定を締結しました。海外拠点でも、各地域の実情に合わせたさまざまな取り組みを進めています。

さらに、ジャトコは、電動パワートレイン技術を含む当社の技術やノウハウを、クルマ以外のモビリティや新たな分野にも拡げて活かしたいと考えています。例えば、ジャトコが得意とするギアや制御の技術を活用し、電動アシスト付き自転車のドライブユニットの商品化に取り組んでいます。また当社で開発したギアと電気自動車のリユース部品を組み合わせた、低圧風力発電機の発電用増速機の実証実験にも取り組んでいます。その他にも、アントレプレナーシップの精神をもって、私たちの技術をさまざまな社会課題の解決や新しい事業に活かす可能性を探索しています。このような取り組みを通して、社会に役立つ新しい価値を提供し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

これらの活動をリードし推進するのは、ジャトコの「人財」です。ジャトコは、従業員を大切な「財産」として捉え、グローバルの各拠点で働く従業員一人ひとりがいきいきと活躍し、成長を実感できる企業であることを目指しています。多様性を尊重しながら、どのような職種、職場においても、性別、年齢、国籍、障がいの有無等にかかわらず、一人ひとりの可能性を広げ、能力を最大



ジャトコ株式会社代表取締役社長兼CEO

佐藤 明由

CEO メッセージ



限発揮できる職場づくりに取り組んでいます。また、従業員の心身の健康を最優先課題の一つとし、従業員のウェルビーイングと会社の持続的成長を目指す、健康経営を実践しています。日本においては、経済産業省による「健康経営優良法人ホワイト500」企業に、5年連続で認定いただきました。

また、社会のみなさまからの信頼を得るためには、全従業員が各種法令やポリシーを遵守し、高い倫理観を持って公正で誠実に行動することが欠かせません。当社はグローバル共通の行動指針である「グローバル行動規範」に基づき、コンプライアンスの徹底に努めています。

世界の企業は、急激な環境変化の中で、時に困難な状況にも直面します。しかしそれはまた、新しいビジネスを生み出すチャンスでもあります。私たちジャトコは、常にサステナビリティの重要性を認識し、企業活動を通じてステークホルダーのみなさまと真摯な対話を重ねながら、企業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでいきます。社会の要請に耳を傾け、その要請に合った価値をいち早く提供することで、持続可能な企業の成長と社会の発展を実現していきます。

ジャトコは、今年度、従来の環境社会報告書をサステナビリティレポートとして発行します。当社のサステナビリティの取り組みに



富士市とともに自転車利用の可能性を探る社会実験を開始



「人とくるまのテクノロジー展2023 YOKOHAMA」でのプレスブリーフィング

触れていただき、みなさまの声をお聞かせいただければありがたいと思います。

私たちの取り組みが、人々の、社会の、そして地球の未来への貢献につながると考え、これからもサステナビリティ経営を強化してまいります。



ジヤトコについて

企業情報

企業理念

価値創造のあゆみ

目指す姿

コア技術

企業情報

会社名	ジャトコ株式会社（英文名：JATCO Ltd）
事業内容	自動車用変速機、 電動パワートレインおよび 部品の開発・製造・販売
設立	1999年6月28日
本社所在地	静岡県富士市今泉700番地の1
従業員数	11,800人（2023年3月31日現在、連結）
代表	代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO） 佐藤 朋由
資本金	299億3,530万円
株主	日産自動車株式会社（75%） 三菱自動車工業株式会社（15%） スズキ株式会社（10%）

財務状況（連結）

単位：億円

	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	5,428	5,613	5,400
営業利益	186	267	28
当期純利益	58	165	△48

（参考）

国内関係会社

- ジャトコ エンジニアリング株式会社
〒417-0002 静岡県富士市依田橋125番地の1
- ジャトコ ツール株式会社
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号
- ジャトコ プラントテック株式会社
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号

海外関係会社

- ジャトコ 米国会社
1974 Midway Lane, Smyrna, TN 37167, USA
- ジャトコ メキシコ社
Carretera Panamericana Km 75, Col. Los Arellano, C.P. 20340. Aguascalientes, AGS., Mexico
- ジャトコ 韓国エンジニアリング社
Lotte IT Castle 2-4F, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- ジャトコ 韓国サービス社
Lotte IT Castle 2-412, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- ジャトコ（広州）自動変速機有限公司
NO.8, Lihong 2 Road, Science City, Guangzhou Hi-Tech Industrial Development Zone, Guangzhou, Guangdong, 510530, China
- ジャトコ（蘇州）自動変速機有限公司
No.2 Tangqiao Road (M), Tangshi Community, Yangshe Town, Zhangjiagang City, Jiangsu Province, 215600, China
- ジャトコ フランス社
ZAC des Godets - Batiment C, 1-4 Impasse de la noisette, 91370 Verrières le Buisson, France
- ジャトコ タイランド社
700/999 Moo 3, Amata Nakorn Industrial Estate, Thumbon Nongkakha, Amphur Phanthong, Chonburi 20160, Thailand

企業理念

—— コーポレートパーパス ——
私たちの存在意義

技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる

モビリティは、人やモノの移動を可能にする。移動は、ただ動くことではない。
無限に広がる空間を動けば、新しい出会い、新しい経験が生まれ、新しい世界が開ける。
だからモビリティの可能性が拡がり、一人ひとりが思う通りの移動ができれば、
全ての人々の心に感動が生まれ、人々の交流に活力が溢れる。そして世界はより自由で豊かになる。
ジャトコは、そんな世界の実現を目指し、技術と情熱でモビリティの可能性を拡げます。

—— ミッション ——

私たちは、社会から信頼される企業として、
グリーン、安全、快適そしてワクワクする商品・サービスを通し、
モビリティに新しい価値を提供します。

—— 価値観：T-E-A-M ——

Team leadership by everybody 全員によるチームリーダーシップ	External mindset 外界志向・顧客志向	Aspiration to win 勝利へのこだわり	Monozukuri excellence モノづくりの極み
--	--------------------------------------	--------------------------------------	--

激しく変化する事業環境の中で、ジャトコは改めて自社が社会に存在する意義を問い直しました。

「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスは、予測が難しい未来に向けて私たちの向かう方向性を示しています。

また、自らの強みを活かし、モビリティを通してより社会の実現に貢献したいという、私たちの願いでもあります。

ジャトコは、コーポレートパーパスの実現に向けて、新しい価値を提供し続けます。

「技術」

ジャトコにとって技術は最も重要な資産であり価値の源泉です。

これまで磨き続けてきた技術を大切に、さらに深化させ、未来を切り拓く思いを込めています。

「情熱」

ジャトコは、モノづくりへの情熱、イノベーションへの情熱、そしてお客さまへの情熱で、新たな可能性を探索します。

情熱は私たちのチャレンジの原動力となります。

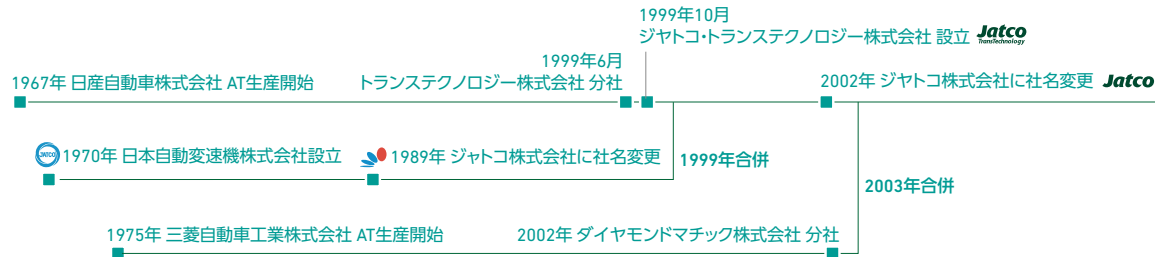
「モビリティ」

社会活動での移動とその手段の全てがモビリティです。

クルマを走る地表だけでなく、海、空、宇宙へと、モビリティの範囲は広がっていきます。

ジャトコの活動エリアもどんどん広がっていきます。

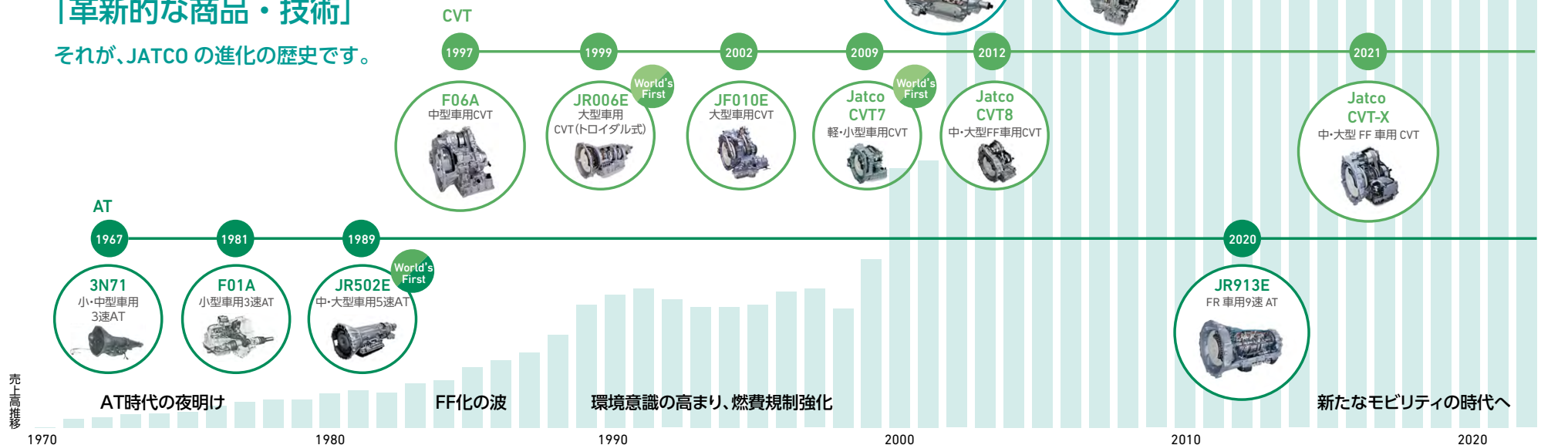
価値創造のあゆみ



創業訓

人を大切に
すべてに清潔に
常に最高の品質を

常に時代をリードする
「革新的な商品・技術」
それが、JATCO の進化の歴史です。



目指す姿

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスのもと、自動車用トランスミッションメーカーとして長年培ってきた技術を活かし、移動がもたらすより良い社会の発展に貢献していきたいと考えています。加速する電動化の中で、電動パワートレインメーカーとしても、独自技術を活かした競争力のある商品を提供していきます。また、その技術を自動車以外の新しいモビリティにも広げ、あらゆるモビリティへのドライブユニット提供の可能性を探っていきます。ジャトコならではの技術とノウハウを最大限に活用し、環境課題や社会課題の解決を視野に入れながら、持続可能な社会の成長とジャトコの成長を両立させていきます。

あらゆるモビリティにドライブユニットを提供



X-in-1 (3-in-1)



X-in-1 (5-in-1)



e-Axle (超小型)



e-Axle (変速機能付)

サステナビリティへの
関心の高まり

カーボンニュートラル
サーキュラーエコノミー
クルマからモビリティへの価値変化

安全で快適な移動の実現

持続可能な
社会の実現への貢献



乗乗機構付車いす



電動アシスト自転車用ユニット



低圧風力発電機の
発電用増速機(ナセル)

コア技術

ジャトコが前身会社の一つである日本自動変速機の創業以来、世に送り出した自動車用オートマチックトランスミッションの累計台数は1億2,500万台以上にのぼります。これらAT/CVTの開発生産を通して磨いてきた、動力伝達機構の領域における、開発能力、生産技術がジャトコの強みです。

ユニット、コンポーネントの設計・製造に加え、常に自動車メーカーとともに車両システムの開発に携わってきました。これにより、車両の制御、通信も含め、動力性能や静粛性、熱マネジメントまで対応することが可能です。また、生産においては、高精度の設計・加工技術や、高品質の製品をグローバルな生産拠点で量産し、安定的に供給することを強みとしています。

これらのコアコンピテンシーを最大限に活かし、電動パワートレインや新たなモビリティへの貢献など、新しい価値の提供を追求していきます。

車両～ユニット～コンポーネントすべてで価値を提供

車両システム開発

- ・ 動力性能
- ・ 静粛性
- ・ 熱マネジメントシステム



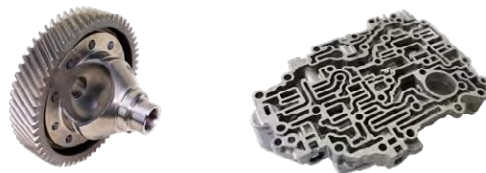
ユニット開発

- ・ 電動化ユニットシステム
- ・ AT/CVTユニットシステム



コンポーネント開発

- ・ コア部品



AT/CVTの動力を伝達する機能を担うギアなどの設計・製造技術



高品質の商品をグローバルで安定的に供給する技術





サステナビリティ マネジメント

ジャトコのスステナビリティ

ーサステナビリティ基本方針

ーマテリアリティ（重要課題）

ジャトコのサステナビリティ

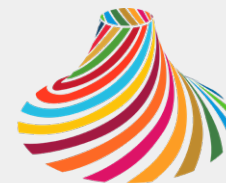
ジャトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスのもと、パワートレインの開発製造で培った独自の技術を活かした価値ある商品やサービスを提供していきます。サステナビリティを経営の中核と捉え、あらゆる事業活動を通して企業として成長し経済に貢献すると共に、社会が直面するさまざまな課題の解決にも貢献することが大切な役割だと考えています。ステークホルダーのみなさまとの対話を通してその関心事を理解し、新しい価値を提供し続けることで、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

サステナビリティ基本方針

- ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というパーパスのもと、サステナビリティを経営の中核と捉え、あらゆる事業活動やその他の活動を通じて経済の発展に貢献し、社会課題の解決に取り組めます。
- ジャトコは、革新的技術で独自の価値を提供することにより、クリーン、安全で快適でワクワクするモビリティが創造する社会の発展に貢献します。
- ジャトコは、お客さま、従業員、ビジネスパートナーのみなさま、地域社会等、全てのステークホルダーとコミュニケーションをとりながら、持続可能な社会の実現を目指します。
- ジャトコは、全ての従業員一人ひとりがサステナビリティを意識し、主体的に取り組むことによって、企業としてサステナビリティの活動を推進し、レベルアップを図っていきます。

SDGs達成に向けた貢献

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ジャトコは世界共通の目標であるSDGsを支持し、その目標達成に貢献してまいります。2022年4月には、本社を構える静岡県富士市が掲げる「SDGs未来都市行動宣言」に登録するなど、SDGs未来都市「富士市」の実現に向けて行動しています。本レポートでは、SDGsとのつながりを示すため、関連する取り組みを記載したページにSDGsの各アイコンを掲載しています。



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市



ジャトコのサステナビリティ

マテリアリティ（重要課題）

ステークホルダーのみなさまの関心と当社の成長の方向性を合わせるため、ジャトコは当社が優先的に取り組むべきサステナビリティのマテリアリティ（重要課題）として、5分野18項目を特定しました。これらの重要課題については、経営会議でも論議を行い、事業活動に織り込んでいくことにより、確実に取り組みを進め、企業価値の創出につなげていきます。

持続可能な地球環境への貢献

- ・ 脱炭素化の推進
- ・ クルマの電動化への貢献
- ・ 循環型社会の構築
- ・ 大気・水資源・土壌保全

モノづくりを活かしたイノベーション

- ・ 移動の可能性を拓くソリューション
- ・ エネルギー効率の追求

地域社会との共生および発展への貢献

- ・ コミュニティの発展
- ・ 社会貢献活動

ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上

- ・ ダイバーシティ&インクルージョン
- ・ 人財育成
- ・ 労働安全衛生

誠実な経営と事業基盤

- ・ 信頼される品質
- ・ 人権
- ・ 持続可能で責任ある調達
- ・ ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス
- ・ ステークホルダーエンゲージメント
- ・ 災害対策（物理的ハザード）
- ・ 情報セキュリティ

課題特定のプロセス

ジャトコのマテリアリティは以下のプロセスで特定しました。





環境

持続可能な地球環境への貢献

環境マネジメント

脱炭素化の推進

クルマの電動化への貢献

循環型社会の構築

大気・水資源・土壌保全

環境コミュニケーション、生物多様性

環境マネジメント

持続可能な未来に向けて、 ジャトコができること

ジャトコはトランスミッション事業で培ってきた経験を生かし、走行性能と環境性能の両立を追い求めてきました。その技術や経験は、CVT では難しいとされていた伝達効率90%の壁を越えた「Jatco CVT-X」や理想的なギア比の設定やレスポンスの良い変速を実現した9速ATの「JR913E」などの商品を通じて、その価値を提供しています。また、今後は電動化時代を見据え、e-Axle等の電動パワートレインも市場投入します。

この技術や仕組みを生かし、クルマ以外のモビリティにも革新的な商品を提供することで、持続可能な未来に貢献していきます。



主力商品のCVT・ATに加え、電動車両用e-Axleの研究開発も進めています

環境方針

環境に配慮した商品と設備で、
「環境とクルマが共生できる社会の実現」を目指します。

環境とクルマが共生できる社会の実現

- ・テクノロジー …… エネルギー伝達効率の高いトランスミッションの開発
- ・汚染予防 …… 環境問題の未然防止および法令の遵守
- ・資源有効活用 …… 資源、エネルギーの使用の最小化
- ・継続的改善 …… 環境マネジメントシステムの有効性向上

グローバルな事業活動においても環境に配慮

世界の自動車メーカーに安定した商品供給を行うために、ジャトコでは生産拠点をグローバルに展開しています。これらの生産拠点では環境への負荷を最小限に抑えるために、日本の生産拠点と同様の環境保全策を展開しながら、各拠点独自のアイデアも積極的に試行しています。また、環境マネジメントシステムの新規格「ISO14001:2015版」を、グローバル各拠点で取得しました。

これからも環境への影響を抑えた生産を、世界の拠点で展開していきます。



グローバル全拠点で「ISO14001:2015版」を取得。(写真は一部)

環境マネジメント

環境マネジメントの推進体制

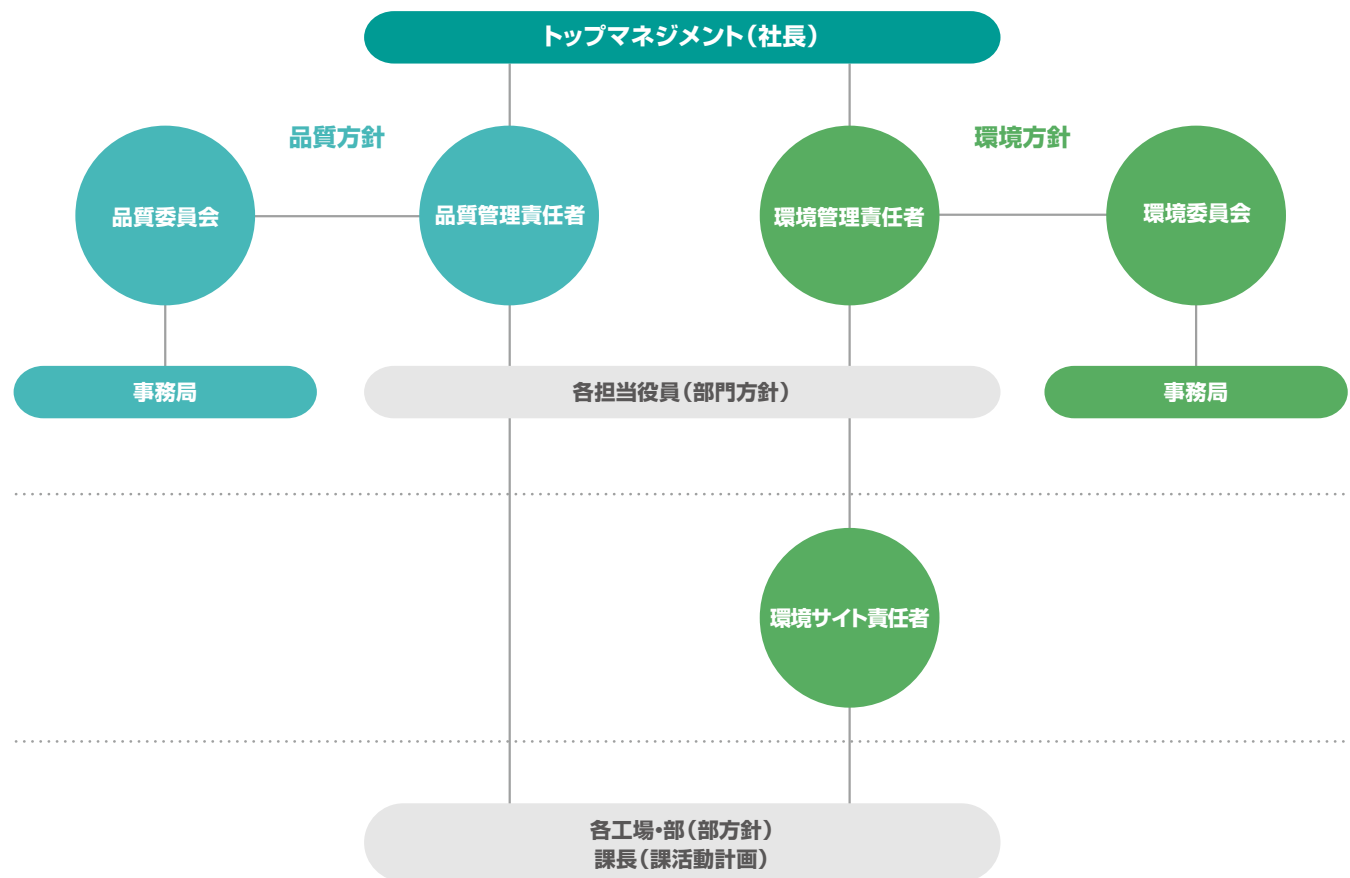
ジャトコは、静岡県富士市の本社と日本国内の各生産拠点で ISO14001 認証を取得しています。

環境マネジメントシステム（EMS）推進体制としては、環境管理責任者1名、サイト責任者9名、副サイト責任者3名を任命し、環境管理責任者の責任と権限のもと、各生産拠点・部門ごとに EMS を推進しています。また2011年には、品質と環境のマネジメントシステムの統合を実施しました。

ジャトコ全体のEMS推進については、環境管理責任者、サイト責任者で構成される全社環境委員会で、総合的に審議と評価を行い、フォローする体制をとっています。すべての部門や生産拠点で全社共通のEMSを運用することで企業としてのベクトルを一元化し、環境マネジメントを強力に推進していることがジャトコのEMSの大きな特徴です。

国内グループ会社では、ジャトコエンジニアリング株式会社が独自にISO14001認証を取得しています。海外拠点では、ジャトコ メキシコ社が2011年度、ジャトコ（広州）自動変速機有限公司が2013年度、ジャトコ タイランド社が、2015年度にISO14001認証を取得し、さらに2019年に生産開始したジャトコ（蘇州）自動変速機有限公司も2022年度に同認証書を取得し、EMSの構築を推進しています。

ジャトコの品質・環境マネジメント推進体制



環境マネジメント

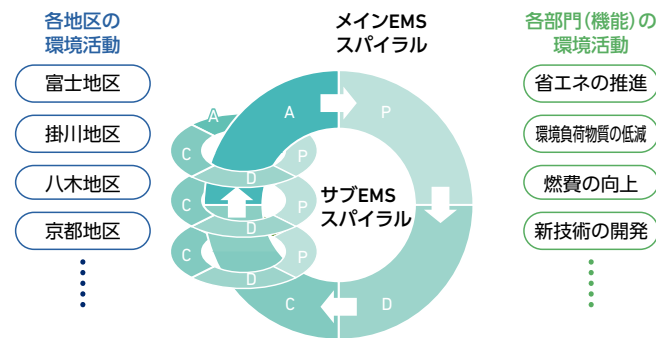
環境活動推進体制

地区別の環境委員会で地域にあった活動を推進

ジャトコでは地区別に環境委員会を設置し、その地域にあった環境活動を実施しています。

ジャトコ全体のPDCAサイクル（メインEMSスパイラル）と地区および部門ごとのPDCAサイクル（サブEMSスパイラル）という2種類のPDCAサイクルを相互に連動させ、各取り組みの方向性を統一。より効果的な活動ができるよう継続的な改善を行うことで、ステークホルダーへの環境価値の創造・提供を目指しています。

ジャトコの環境活動概念図



環境価値の創造と提供、持続可能な社会の実現

ステークホルダー お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域社会など

環境企画分科会で中長期戦略を検討

ジャトコでは、中長期の環境戦略を検討する組織として「環境企画分科会」を2008年に立ち上げました。地区ごとの環境マネジメントを行う「EMS推進体制」に対し、社会情勢や上位方針などを受け、ジャトコがとるべき環境の中長期戦略を検討・推進するための組織です。ジャトコ全体を俯瞰しながら、社内を横断した企画・マネジメントを実施しています。また、海外拠点での環境活動の企画・マネジメントなども連携しながら推進しています。

ジャトコの環境活動概念図



分科会の中には商品開発や生産、調達などの事業活動ごとに8つの小分科会を設け、機能を軸とした環境マネジメントを展開しています。環境企画分科会では、ジャトコが環境における最重要課題としている「地球温暖化防止」、「環境保護」、「資源の有効活用」という3つの分野での取り組みを強化しています。

*1 企業理念の詳細はP.7をご覧ください
*2 環境方針の詳細はP.15をご覧ください
*3 品質方針の詳細はP.60をご覧ください

環境マネジメント

2022年度の環境実績



環境マネジメント

マテリアルバランス

ジャトコは循環型社会形成を目指し、適切な資源の使用と排出量低減に取り組んでいます。

投入量	単位	2021	2022
原材料（アルミ材）	kt	77	59
原材料（鋼材・鋼板）	kt	174	137
エネルギー（LNG）	km ²	10,059	10,059
エネルギー（LPG）	T	1,754	1,434
エネルギー（灯油）	kL	5,913	4,562
エネルギー（その他）	kL	125	224
電力	MW-h	605,669	513,001
水資源（工業用水）	km ²	1,262	1,060
水資源（上水）	km ²	241	142
水資源（地下水）	km ²	949	904

排出量 / 生産量	単位	2021	2022
CO ₂	t-CO ₂	320,739	281,599
排出ガス	kNm ²	701,092	493,700
排水量	km ²	2,207	2,204
廃棄物発生量	t	499	584.8

（グローバル合計）

環境マネジメント

海外各拠点のマテリアルマネジメント

ジャトコ（広州）自動変速機有限公司

	2018	2019	2020	2021	2022
電気 (kw/h)	113,679,974	105,640,590	109,968,489	87,337,703	61,967,997
天然ガス (m ³)	-	-	-	-	-
プロパンガス (t)	-	-	-	-	-
水使用量 (m ³)	175,520	156,462	161,703	131,685	102,045

2007年設立のジャトコ（広州）自動変速機有限公司は2013年から環境マネジメントシステムの構築をはじめ、2014年3月にISO14001を取得しました。「環境とクルマが共生できる社会の実現」を目指し、同社は環境委員会とISO事務局を設立し、環境マネジメントシステムを運営しています。環境委員会は総経理、各副総経理および各部署の代表で構成され、環境活動を総合的に管理・評価・フォローしています。ISO事務局は工務部に設置され、環境法規要求の適合評価とその他の日常事項を実施しています。

ジャトコ メキシコ社

	2018	2019	2020	2021	2022
電気 (kw/h)	215,265,568	231,490,755	169,617,431	172,062,929	160,110,000
天然ガス (m ³)	2,626,992	2,010,198.67	796,922	1,290,724	1,500,000
プロパンガス (t)	512.16	241	150	-	-
水使用量 (m ³)	353,924	372,382	307,989	329,334	326,700

ジャトコ メキシコ社では、2003年4月の設立以降、環境方針の制定や電力供給側からの省エネルギー活動、廃棄物分別の推進によるリサイクル率の向上など、さまざまな環境活動を推進してきました。特に2009年からは環境マネジメントシステムの構築を進め、2011年5月にISO14001の認証を取得しました。環境マネジメントシステムの運営に当たり、環境委員会、その副委員会である環境法的要求事項副委員会、省エネルギー副委員会の3つの委員会を設置しています。環境委員会は、社長、副社長を筆頭に、各部署の代表で構成され、環境活動を総合的に審議・評価・フォローしています。

ジャトコ（蘇州）自動変速機有限公司

	2018	2019	2020	2021	2022
電気 (kw/h)	-	-	29,598,000	27,699,000	18,875,000
天然ガス (m ³)	-	-	36,000	36,000	43,000
プロパンガス (t)	-	-	-	-	-
水使用量 (m ³)	-	-	43,438	43,156	24,690

2019年11月に生産開始したジャトコ（蘇州）自動変速機有限公司では、2022年度にISO14001を取得しました。この一環として環境委員会を設立や、地域貢献活動として周辺の企業とともに環境活動に取り組み、危険廃棄物と呼ばれる環境影響のある廃棄物量を削減するために切粉と切削油の分離装置や熱処理真空浸炭炉排気のVOCs削減設備を導入し、政府環境局と連携しながら、よりクリーンな企業を目指しています。

ジャトコ タイランド社

	2018	2019	2020	2021	2022
電気 (kw/h)	31,704,800	27,119,912	14,555,600	19,590,020	13,106,000
天然ガス (m ³)	-	-	-	-	-
プロパンガス (t)	41.76	42.77	17.46	20.12	22,700
水使用量 (m ³)	72,201	58,891	34,025	42,824	39,000

2013年9月に生産開始したジャトコ タイランド社では、設立以来、環境マネジメントシステムの構築を進め2016年2月にISO14001を取得しました。また、「ジャトコ タイランド グリーンアクション」として環境負荷の低減を目指し、溶湯を他社と共同購入することで環境負荷低減、真空浸炭熱処理設備の導入、工場排水の浄化、資源材料の分別回収による再利用化、工場用地内の緑地率極大化などの環境負荷を低減する活動を計画し、地元の企業と一緒に取り組んでいます。

環境マネジメント

PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減

ジャトコは年度ごとに環境負荷低減のための取り組み事項を「環境目標」として掲げ、その実現を目指しています。また、毎年度の取り組み結果を踏まえ、次年度以降の目標を設定することで、環境パフォーマンスの継続的改善を図っています。2022年度、環境に関する重大な事故は発生していません。

環境目的	項目	2022年度目標値	2022年度実績評価	評価	2023年度目標
環境マネジメントシステムの継続的改善	定期的レビュー実施	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	○	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）
	内部環境監査員の養成	必要人員	7名	○	必要人員
法規制の遵守、環境問題の未然防止	行政、官公庁からの指摘	指摘件数 0件	指摘件数 0件	○	指摘件数 0件
	著しい環境側面の維持管理	定期見直し実施率 100%	定期見直し実施率 100%	○	定期見直し実施率 100%
	環境法関連教育の実施	環境教育の実施（2回）	環境教育の実施（2回）	○	環境教育の実施（2回）
	環境事故防止	AB ランク事故 0件 C ランク事故 1件	AB ランク事故 0件 C ランク事故 1件	○	AB ランク事故 0件 C ランク事故 0件
資源の有効活用	省エネルギーの推進 生産台数当たりのエネルギー量 (CO ₂ 換算)	0.06015t-CO ₂ /台	0.05917t-CO ₂ /台	○	0.04819t-CO ₂ /台
	廃棄物削減の推進 廃棄物総発生量の削減	2.541kg/台	2.514kg/台	○	2.004kg/台
	水使用量の削減	0.692m ² /台	0.645m ² /台	○	0.550m ² /台
環境負荷低減に向けた技術開発	環境配慮設計 [環境保全、自動車燃費改善への貢献]	個別（商品）課題の目標達成率 100%	個別（商品）課題の目標達成率 100%	○	個別（商品）課題の目標達成率 100%
	商品の環境負荷物質管理と削減	商品の環境法規制への適合率 100%	商品の環境法規制への適合率 100%	○	商品の環境法規制への適合率 100%

脱炭素化の推進



カーボンニュートラルへの取り組み

ジャトコは「ライフサイクル全体」「生産」「開発」「環境活動」の4つの領域への取り組みを中心に、2050年までにバリューチェーン全体でのカーボンニュートラル実現を目指します。

ライフサイクル全体での取り組み

原材料調達からリサイクルまでの一連のライフサイクルにおける環境影響を評価し、当社事業活動とサプライチェーンのCO₂排出量削減に取り組めます。



生産における取り組み

DXの推進と生産技術の革新によりスマートファクトリーを実現し、省エネルギー化を促進します。また、再生可能エネルギーの積極的導入や発電などにより、生産プロセスにおけるCO₂排出量削減に取り組めます。



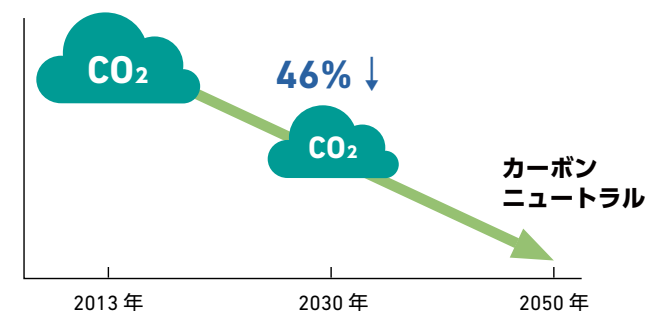
商品における取り組み

トランスミッションの効率を極限まで改善し、一層の燃費向上に取り組めます。さらに、電気自動車、ハイブリッド車などの次世代自動車に向けて、当社のコア技術を活かした商品開発を加速し、CO₂排出量削減に貢献します。



環境活動など包括的な取り組み

行政や地域社会、NPO法人などと協働した植林などの環境活動をこれまで以上に推進し、よき企業市民としてもCO₂削減に貢献していきます。



2030年までにCO₂排出量

46%減*を目指す *2013年比

カーボンニュートラル・ステアリング・コミッティ

カーボンニュートラル実現に向けた戦略策定や進捗確認などは月に1回のカーボンニュートラル・ステアリング・コミッティで役員が議論しています。「ライフサイクル全体」「生産」「商品」「環境」の責任者が参加し、社長らレビューの支援・意思決定による迅速な課題解決と全社での活動の活性化を目指しています。

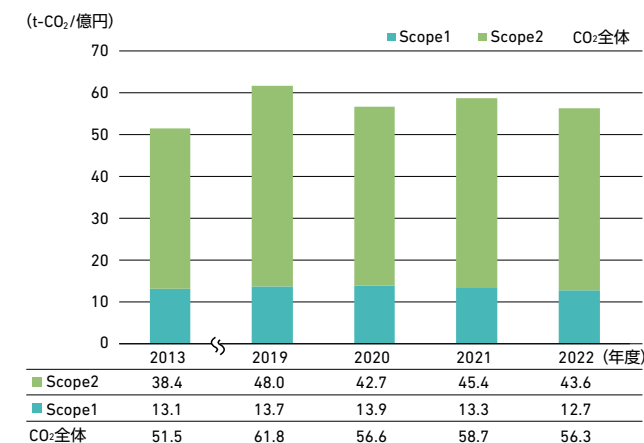
カーボンニュートラル・ステアリング・コミッティ体制

議長：経営企画部部長

主催：経営企画部

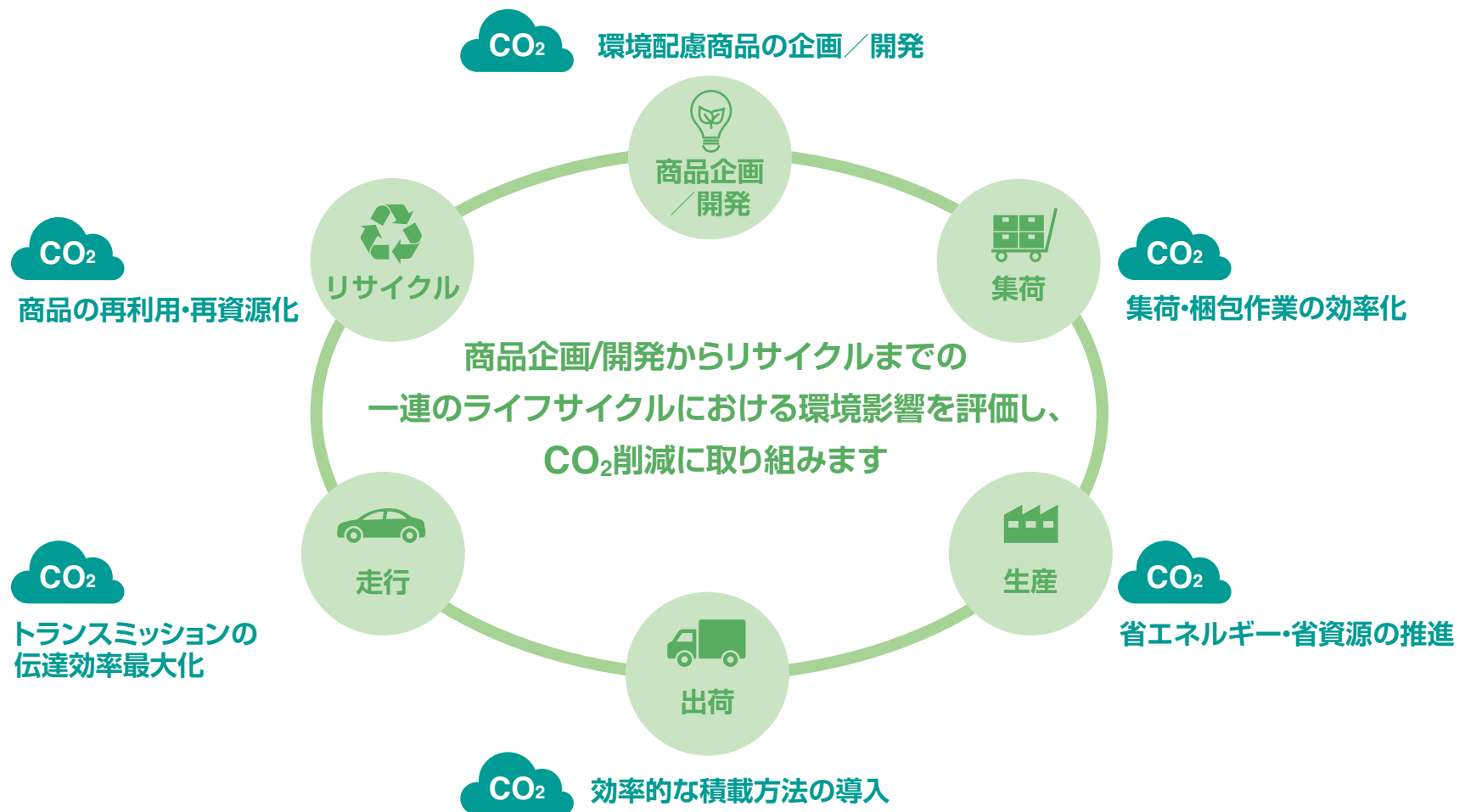
レビュー：CEO
(商品における取り組み)
開発部門役員
(LCA全体での取り組み)
調達部門・営業部門役員
(生産における取り組み)
生産部門・品質部門役員
(環境活動などの取り組み)
企画部門役員

CO₂排出量



脱炭素化の推進

ジャトコ社内のライフサイクル全体での取り組み



脱炭素化の推進

生産での取り組み

生産プロセスの効率化を追求した 省エネルギー・省資源活動を推進

ジャトコでは原材料の購入後、鑄造、鍛造、加工、熱処理、組立と完成ユニットまでの一貫生産を行っており、新商品計画時、新技術開発時には地球資源の有限性を認識したアプローチを行っています。特に新技術の積極的導入によるCO₂削減や有害物質管理、遊休設備の活用によるリサイクルといった重点課題に取り組むため、環境負荷が低い高効率な工法の開発やプロセスを短縮するための革新技術の開発、省エネルギー・省資源型設備の導入・転換などを進めています。

加工・熱処理ラインに生産設計を導入

生産技術部は商品の設計にかかわる「生産設計」を推進しています。プーリーの加工ラインでは加工箇所を極力少なくすることで設備台数・サイクルタイムを大幅に削減し、熱処理ラインでは必要なスペックを絞り込みサイクルタイムを大幅にカットしました。

加工ライン			
	従来ユニット用 ライン	新ユニット用 ライン	
設備台数	49台×3.5モジュール	27台×3.5モジュール	▲43%
熱処理ライン			
	従来ユニット用 ライン	新ユニット用 ライン	
サイクルタイム	100%	66.6%	▲33%

油圧圧入からサーボ（電動）圧入に変更

従来の組立工程における油圧の圧入では油圧発生装置でポンプを常時回しています。そのため、消費電力や騒音・発熱が大きくサーボを用いた電動圧入への変更を進めています。サーボは油圧の圧入のようにポンプを常時駆動しないため、消費電力・騒音・発熱を抑えることができました。

生産工程・工法の変革と革新的技術開発を強化

ジャトコでは次世代技術の開発においてもCO₂排出の低減を主要目標の一つに掲げており、生産部門と開発部門が連携して2050年度までに温室効果ガスをゼロにするという目標の達成を目指しています。最新のCVTの生産工程・工法では、これまでのプロセスをさらに見直し、生産リードタイムを大幅に短縮しています。その他すべての部品について生産部門・開発部門が連携しながらCO₂の排出抑制に取り組んでいます。



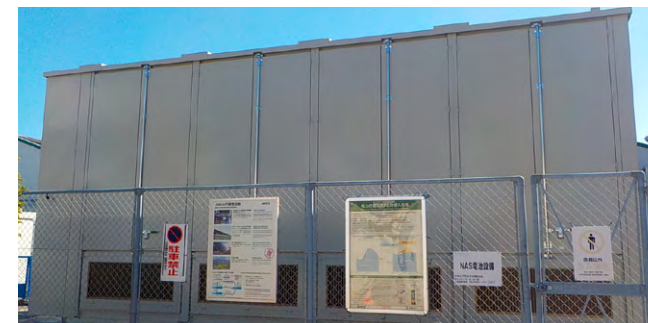
真空浸炭炉

また、開発初期から生産技術部門が商品の設計にかかわる「生産設計」を進めることで、商品性能と生産性の向上を両立させる活動にも注力しています。ダイキャスト時の溶湯購入・歯車部品のシェービング工程廃止・真空浸炭炉の開発・薄肉ダイキャストや材料変更によるユニット軽量化、鑄造機を小型化（ダウンサイジング）することで、より少ないエネルギーで同じ商品が製作可能になるなど、さらなる技術のブレークスルーに挑戦しています。

電力運用を効率化するNaS電池を導入

地球環境保全に向けた取り組みとして、ジャトコでは異業種企業との連携を積極的に進めています。東京電力エナジーパートナー株式会社とは、2005年度から共同でNaS電池*設備を導入し、負荷の少ない夜間に充電し負荷の高い昼間に使用することで、効率的な電力運用を実施しています。

また、2020年度には設備更新を行い、電力会社の電力不足時に電力を放出し、電力需給の安定に貢献しています。



NaS 電池設備

*液体ナトリウムと液体硫黄、特殊セラミックを利用した蓄電池

脱炭素化の推進

物流での取り組み

ジヤトコ部品輸送ではGX（グリーントランスフォーメーション）としてCO₂排出量削減に取り組んでおり、2013年から2022年までに5%を削減しました。

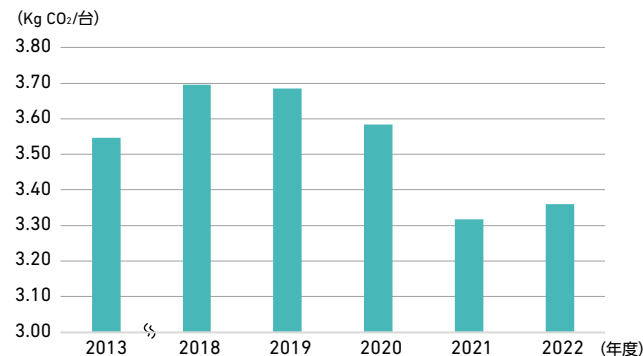
部品輸送に伴うCO₂排出量を削減するために、日本国内のお客さまの理解を得ながらモーダルシフトを推進しています。

具体的には、ジヤトコの生産拠点である静岡県までの調達部品の輸送に2009年度より広島方面（約780km）からの部品輸送をトラックから鉄道輸送に切り替えました。この結果、83.3%のCO₂削減効果をあげることができました。

また、2019年9月よりジヤトコ富士地区からの京都八木地区へのジヤトコ生産部品の輸送にダブル連結トラックを導入しました。高積載率での輸送を行い、CO₂削減に繋がりました。

今後もモーダルシフトや積載効率アップにより環境にやさしい部品輸送に取り組んでいきます。

ユニット当たりCO₂排出量



鉄道輸送



ダブル連結トラック 写真：(株)バンテック提供

2022年度の輸送におけるCO₂排出量

5%削減

(2013年度比)



物流からのCO₂排出量

(年度)

	単位	2021	2022
合計	t-CO ₂	4,376	4,166
インバウンド	t-CO ₂	3,127	2,824
インターナル	t-CO ₂	1,108	1,262
アウトバウンド	t-CO ₂	141	80

荷量比率

(年度)

	単位	2021	2022
トラック	%	92.9	94.0
鉄道	%	7.1	6.0

脱炭素化の推進

さまざまな環境への取り組み

各工場で照明設備を改善

照明改善によるCO₂削減を計画的に進めています。工場照明における電力量の消費割合は決して少ないため、工場単位で主に天井照明の改善を実施。照度環境を確保したうえで、省エネルギー型器具への変更のほか点灯の間引きや適切な消灯を実施しました。

回生エネルギーや省電力機器の利用と消費電力の見える化

モーター回生エネルギーの利用やLED照明など省電力機器の採用により、電力消費量を抑えることができました。また、メインライン、サブラインごとに消費電力を見える化。富士第1地区の事務棟には会議室のCO₂排出量が一目で分かる工夫を凝らし、省エネ意識を向上させる活動を進めています。



会議室の入り口にCO₂排出量を掲示

グリーンカーテンプロジェクトの実施

京都・八木工場では、「グリーンカーテンプロジェクト」と題し、工場建屋につる性の植物を絡ませることで、直接日光を遮断。日差しを遮ることで、放射熱の発生と侵入を抑えています。



太陽光発電システム導入と屋上緑化

富士本社の屋上に再生可能エネルギー利用設備である太陽光発電システム（10kW）を設置し、発電電力を空調設備の電力として利用しています。また、植物による建物温度低下特性を利用した屋上緑化を実施し、夏場の空調設備における電力消費量を抑えています。2022年度は約5t-CO₂を削減しました。



太陽光発電システム



屋上緑化

環境コンテンツによる従業員の啓発活動

従業員の環境意識向上を目的に、従業員向けポータルサイトに環境専門のサイトを設けています。社内外の環境行事への参加を呼びかけるとともに、ジャトコ独自のeco検定やエコドライブ検定など気軽に環境問題を学べるコンテンツを掲載しています。

実際の電力使用量の状態が分かる「電力見える化システム」や省エネルギーの情報を掲載した「動力原低について」を掲載しています。

全従業員が各地区の電力使用量を手軽に確認できるため、一人ひとりの自発的な節電活動につながっています。



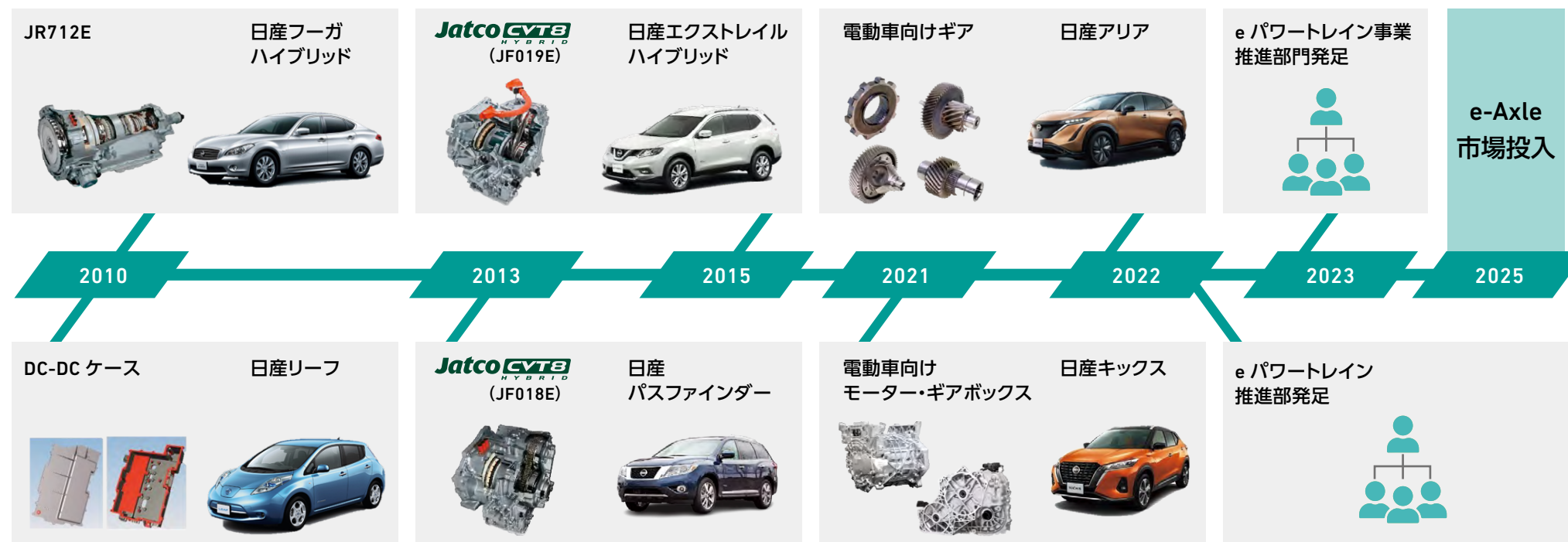
電力の見える化システム

クルマの電動化への貢献



独自技術を生かした電動化商品の投入

ジヤトコは10年以上前から電動化時代に備えてノウハウを積み重ねてきました。2010年に世界で初めて1モーター2クラッチシステムを採用したFRハイブリッド車用トランスミッション、JR712Eを開発。2013年には同システムのエンジンとモーターの結合部に世界で初めて乾式多版クラッチを採用したFFハイブリッド車用トランスミッション、Jatco CVT8 HYBRID を市場投入し、さらに2021年からはジヤトコ タイランド社で日産キックス向けのモーター・ギアボックスの生産を開始しました。日産のフラッグシップEVである新型日産アリアにもギア部品を供給し、日産アリアの特長の一つである静粛性などに貢献しています。積み重ねてきたノウハウを基に、2025年までにはモーター・ギア・インバーターが一体となった電動車用駆動ユニットのe-Axleを本格的に市場投入します。

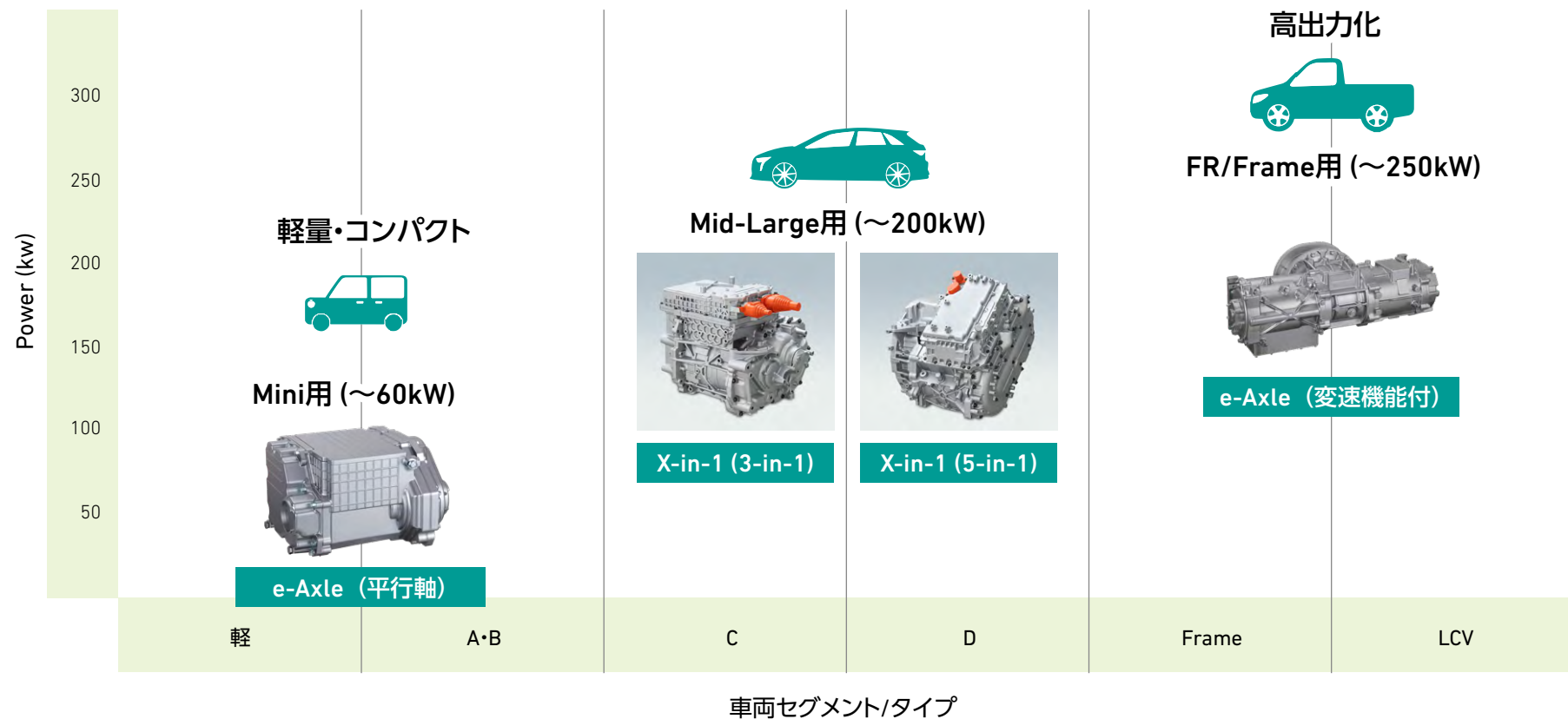


クルマの電動化への貢献

電動化への取り組み

電動パワートレインをフルラインナップ化してお客さまのニーズに応える

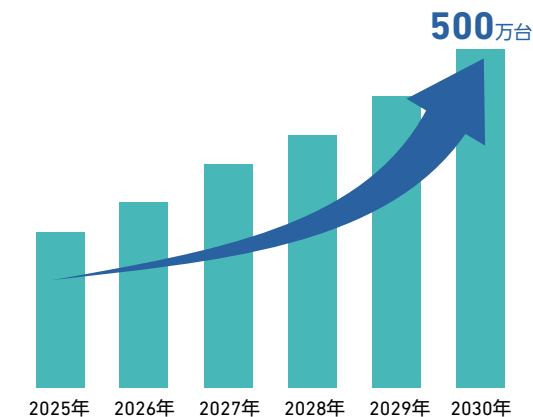
電動化が加速する中、EVは小型車、中型車のセグメントから、軽自動車やコンパクトカー、あるいは高性能車やピックアップトラックなどの大型車へとラインアップが広がっていきます。当社もそれらの動きに対してさまざまなスタディを行っています。中でも注力しているのが研究開発中の超小型e-Axleと、大型ピックアップトラックなどへの搭載を想定した変速機能付きのe-Axleの2機種です。



クルマの電動化への貢献

2030年までの電動車向けユニット年産500万台へ体制強化

ジャトコは電動車向けユニットの年間生産台数を2030年に500万台にする目標を掲げています。その実現のために社内体制の強化を着々と進めてきました。今年4月には、新しく「eパワートレイン事業推進部門」を設立しました。電動化事業を全社視点で企画・推進し、電動パワートレイン事業を力強く推し進めていきます。開発では、昨年10月に座間に開発センターを立ち上げるなど、電動パワートレインの設計開発能力を拡充しつづけています。そしてグローバルで競争力のある生産コストを実現するため、大量生産を前提とした生産方式からいったん離れ、生産量の変動や機種の増減にも柔軟に対応できる生産方式を、ゼロから検討しています。



専門組織の立ち上げ

2023年4月、「eパワートレイン事業推進部門」の新設

開発体制強化

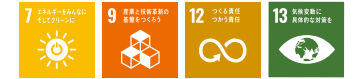
2022年10月、「座間開発センター」の設立

生産方式の刷新

- 競争力のある工場
- あらゆるロスを限りなくゼロへ
- 変種変量に対応できる生産方式
- グローバルで競争力のある生産コスト

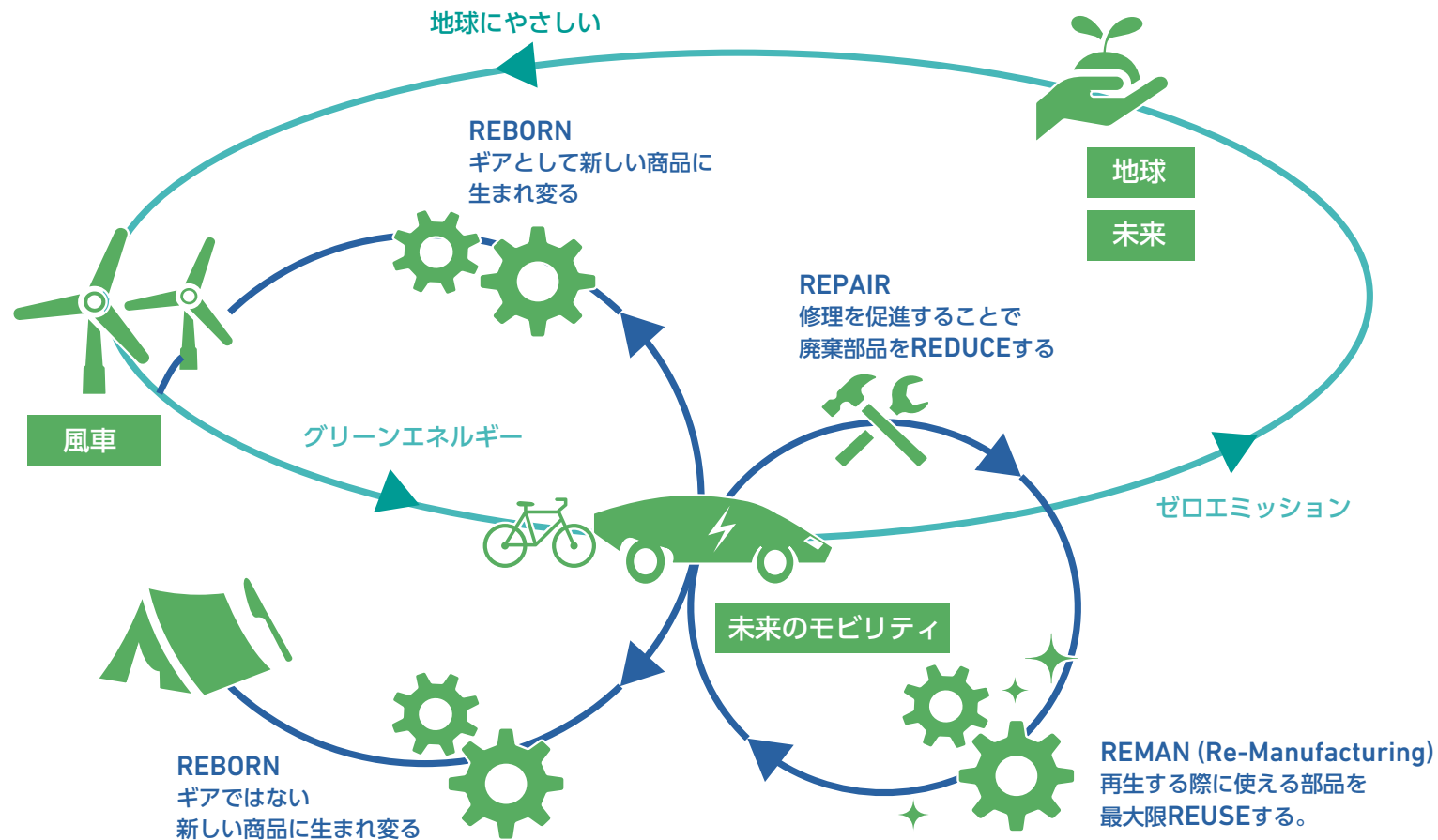


循環型社会の構築



ジャトコのサーキュラーエコノミーの考え方

ジャトコはモノづくり企業として、限りある資源を有効に活用することが大切だと考えています。以前より、使用済みとなった当社製AT/CVTを回収し、再生して再利用するリマニュファクチャリングを推進してきました。今後は、さらなるサーキュラーエコノミー推進にも力を入れていきます。資源依存の最小化、廃棄物の削減など、製品および事業活動全体において、サーキュラーエコノミーの効果的な仕組みの構築に取り組んでいきます。



循環型社会の構築

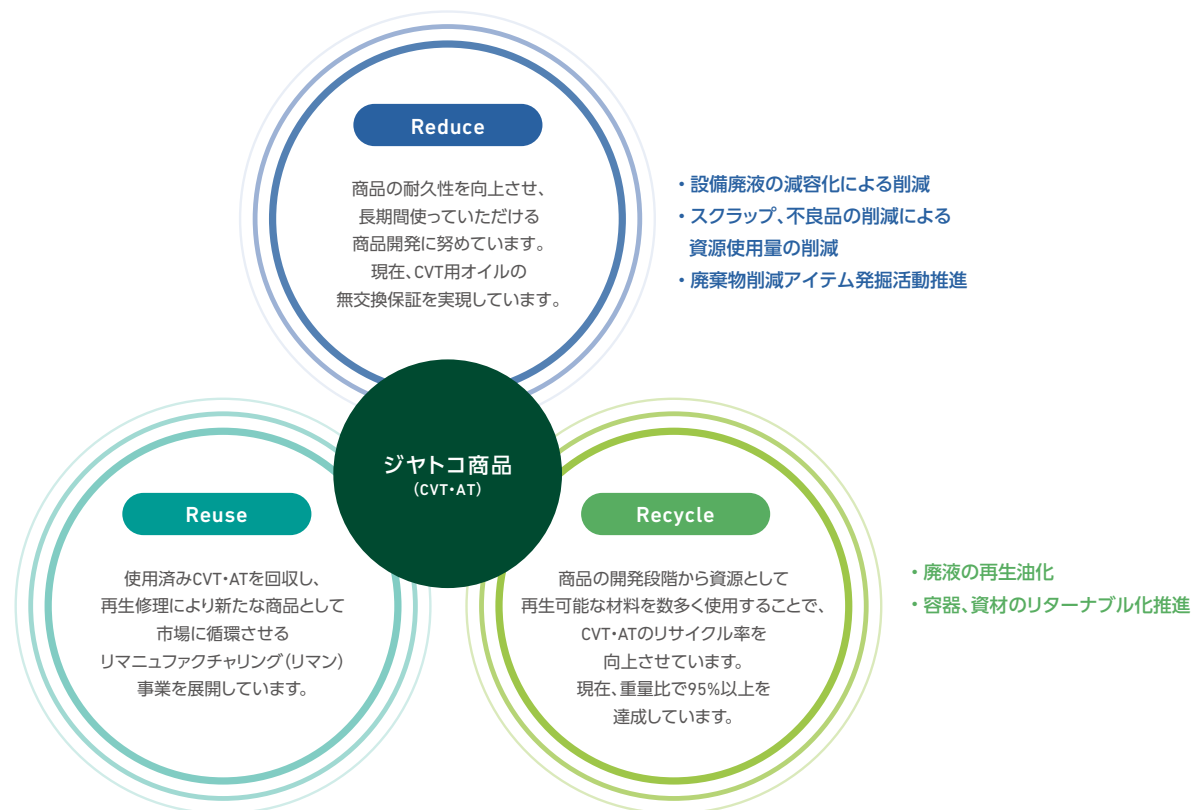
循環型社会の実現へ

3Rとは、循環型社会を構築するためのキーワードとなるReduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）という3つの英単語の頭文字を表したものです。

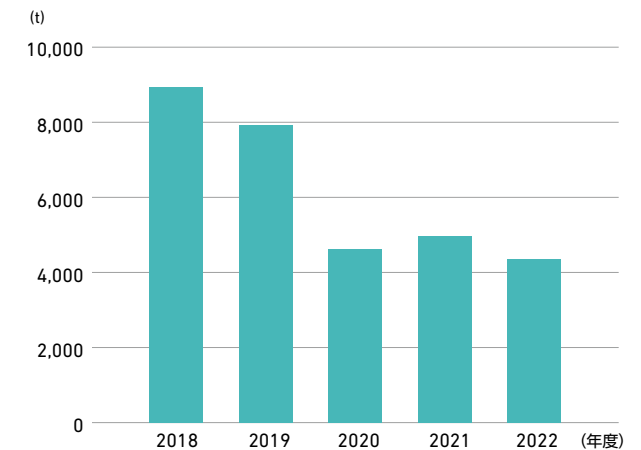
ジャトコでは特に商品を長く使っていただけるように設計開発することで廃棄物を減らし（Reduce）、市場から回収された製品の中からまだ使える部品は再生利用し（Reuse）、再生可能な材料を活用して新たな資源へ再生化（Recycle）することで循環型社会の実現に取り組んでいます。

廃棄物については、削減目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいます。長期的には、2050年までに生産台数当たりの廃棄物排出量50%削減（2016年比）を掲げています。

商品の「3R」



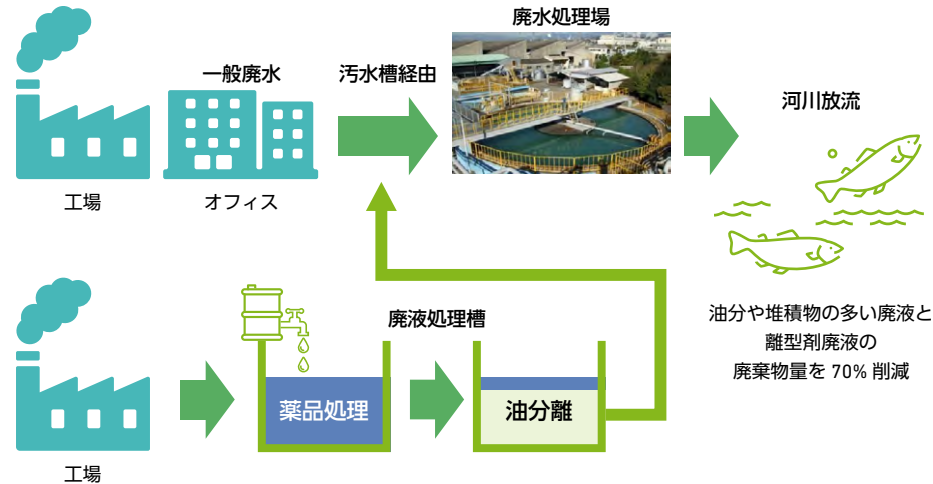
廃棄物発生量実績



循環型社会の構築

工場の廃液を削減

工場やオフィスから排出される汚水は、社内の水処理施設に送られ安全な水に処理してから河川に放流しています。しかし、油分や堆積物の多い濃廃液や離型剤廃液は水処理施設で安全な水質に処理できないため、廃棄物として外部で処理していました。そこで使用薬剤や浄化方法の見直しを繰り返し、濃廃液と離型剤廃液の処理が可能に。この改善によって濃廃液と離型剤廃液の廃棄物量を70%削減しました。



型の直彫り化による環境負荷の軽減

ジャトコで行っているダイキャストや鍛造で使用している型は形状が複雑なため、従来は放電加工を用いて製作していましたが、現在はマシニングセンターで直接加工する直彫り化を推進。加工プログラムや切削条件の改善による加工時間短縮で廃棄物も大幅に削減できました。



直彫り加工で製作したダイキャスト金型

輸送・梱包資材の改善

トラック台数削減につながる積載率向上対策として、購入部品の納入荷姿の改善を行っています。

また、従来、商品の移動・保管に使用している樹脂製容器や商品保護のために使っている樹脂製緩衝材類は、劣化や商品の変化により使えなくなった場合、産業廃棄物として処分してきましたが、ジャトコでは2004年以降、ほかの商品への再利用を開始。また、樹脂製品製作会社にも協力いただき、原料としてリサイクルするなど、廃棄量の削減を進めています。

購入部品の荷姿の改善



無駄な空間を無くすことにより、荷の輸送効率が向上するだけでなく、荷扱い時の安全性向上も確保しています



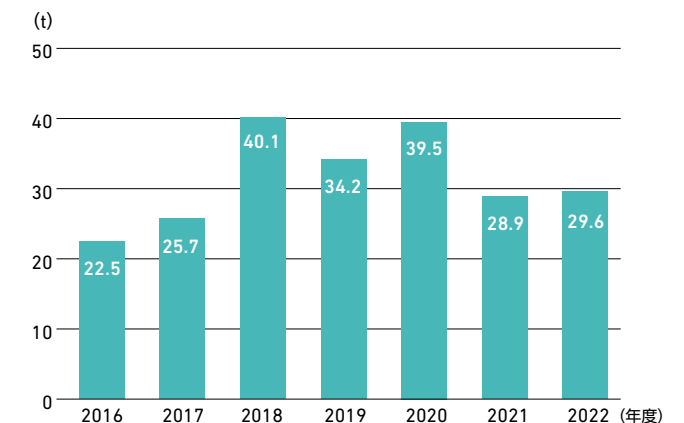
洗浄前



洗浄後

また、合わせて容器のクリーン化活動も推進しています

輸送用樹脂製容器類の再利用・リサイクルの推移



循環型社会の構築

廃棄物削減活動

分別の徹底で廃棄物を再資源化

ゼロ・エミッションの一環として、ジャトコでは廃棄物などの焼却処分や埋立処分を打ち切り、サーマルリサイクル（燃料化）やマテリアルリサイクル（再生利用）などを推進しています。また、廃棄物を有効な資源として活用できるよう、分別を徹底しています。この活動により、日本国内の事業所では再資源化率100%を達成することができました。

再資源化率

100%達成

全員参加による廃棄物削減活動

ジャトコ従業員は常に「削減できないか、再利用できないか、他に使えないか」を考え、廃棄物を減らす工夫をしています。どうしても捨てざるを得ないものは再資源化しやすいように分別基準を決めて廃棄しています。

各事業所では、廃棄物総量削減の目標を立て、各職場が実施した取り組みのアイデアを登録することで、廃棄物削減情報の共有化と職場ごとのモチベーションの向上を図っています。

2022年度の廃棄物総量

67.5%削減
(2006年度比)

循環型社会の構築

リマニュファクチャリング体制

ジャトコでは1989年からCVT・ATユニットのリユース事業に取り組みリマニュファクチャリングの技術開発を進めてきました。リマニュファクチャリング（リマン）とは、従来使用済み品として廃棄されていた当社製のCVT・ATユニットを自動車ディーラーの整備工場から回収し、分解調査、部品洗浄、部品検査、部品交換、組立、性能テストを行い、リユース品でありながら新品とかわらない品質のアフターセールス部品として、自動車ユーザーのみなさまへお求めやすい価格で提供するシステムです。

特に点検基準設定においては、改善のPDCAを回すことにより再利用部品の拡大を図り、省資源、省エネルギー化を進める事でCO₂削減に寄与し、地球温暖化防止に貢献してきました。さらにリユース品独自の点検項目を追加し、新品の量産品と同等の性能テストで性能確認を実施することで、新品と同等の品質を保証しています。

またリユースしやすい部品設計、修理しやすい構造設計にも取

り組み、市場から回収したCVT・ATユニットの再利用率の向上にも取り組んでいます。さらに、市場から回収した部品を細かく調査し商品開発へフィードバックすることで、商品のさらなる品質向上を行っています。

この活動が環境資源の効率的な利用に大きく貢献していると評価され、2017年度 資源循環技術・システム表彰（主催：一般社団法人産業環境管理協会、後援：経済産業省）において、経済産業省産業技術環境局長賞を受賞しました。

現在リマン事業拠点は、日本（日本、欧州向等）、メキシコ（北米向）に加え、中国では現地修理会社と提携するなどグローバルで3R活動向上に取り組んで

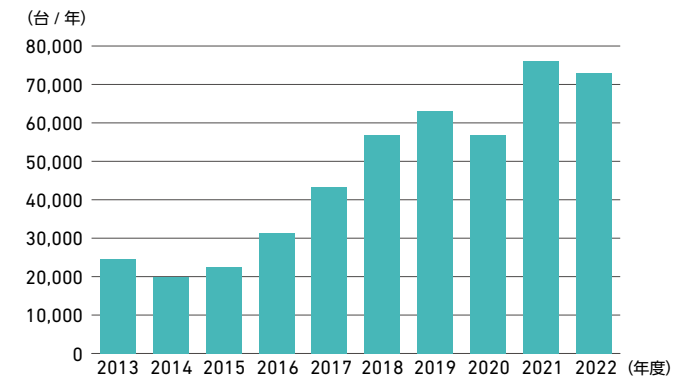


経済産業省産業技術環境局長賞を受賞

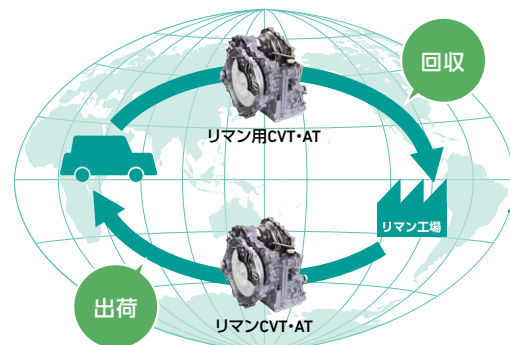
います。

今後はグローバルに拠点を拡大し、より高いレベルで地球環境保護に貢献していきます。

リマンの生産実績



リマンのプロセス



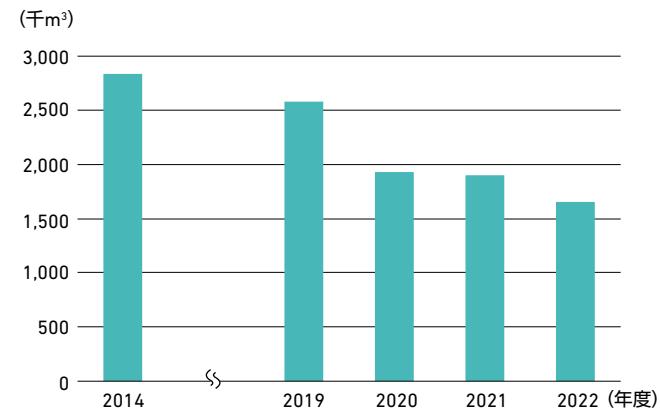
大気・水資源・土壌保全



毎年2%の水削減が目標

ジヤトコは工場での生産に伴う水使用量を把握し、削減への取り組みを進めています。親会社である日産自動車株式会社が策定した「ニッサン・グリーンプログラム」に則り、地球規模の水枯渇対策として2014年度から本格的に水使用量の削減に取り組んでいます。毎年2%削減することを目標に置き、2022年度は2014年度比42%の削減を実現しました。

水使用量



高水準の浄化を継続的に維持

排水にあたっては国や市町村の基準を遵守するのはもちろん、それ以上に厳しい社内基準を設けて浄化を実施しています。各地区の特徴に応じて、活性炭吸着法、限外ろ過法、高速凝集沈殿法、接触酸化法、砂ろ過、加圧浮上などの施設を組み合わせることで、高水準の浄化を継続的に維持しています。

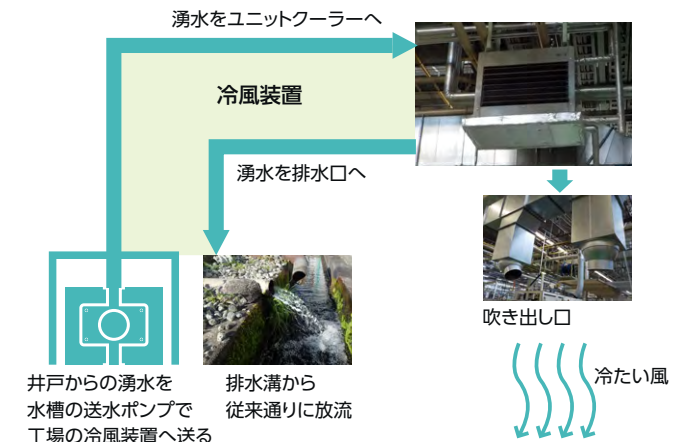
また、国内の各事業所では水道の蛇口に節水バルブを取り付け、水使用量削減に取り組んでいます。



水処理設備

富士山湧水クールファン

富士山麓に位置する富士第1地区工場は敷地内に湧水がわいています。従来は排水溝から放流していましたが、湧水の温度が1年中15-17℃を維持するため、工場内の冷風装置を経由し、天然のクーラーとして活用しています。



大気・水資源・土壌保全

冷却水循環装置の導入で排水を再利用

ジヤトコでは、生産設備の冷却や洗浄・切削油の希釈に使用している水の浄化のため、冷却水循環装置を導入し、排水の再利用を推進しています。



鋳造設備の冷却水循環装置

雨水対策を実施

工場の敷地へ降った雨水は、排水口から直接河川へと排水されます。工場敷地内の建物や道路に付着した油脂などによって汚れた雨水が河川に流れないように排水口の状況を常時カメラで監視しています。

排水口をすぐに認識できるよう、従業員の手で色分けし、間違っで汚れた水を流さないことはもちろん、色分け作業を通じて排水口が河川へとつながる入口であることを従業員全員が意識するようになりました。

敷地内を走る従業員のクルマや部品、商品を運搬する車両から漏れたオイルなどが、万が一排水口へ流れた場合に備えて、河川との接続口に流れを止めるゲートを設けています。



従業員による排水口の色分け作業

安全・安心に配慮した汚水の輸送方法

ジヤトコでは汚水の発生を減らすとともに、発生した汚水を処理施設へと輸送する際にも安全性に配慮しています。部品を洗浄する設備には、水の汚れを取り除き、繰り返し再使用可能な工夫が施されており、数ヵ月使用した後にローリー車で処理施設へと輸送しています。

また、地中に埋設された配管や側溝で汚れた水を処理施設に送る方法は経年変化の影響を受けやすく、信頼性に問題があると考え、従業員の目が行き届く地上に露出した配管などで処理施設まで運ぶ方法へと改善を進めています。



廃棄物専用運搬車両による処理施設への運搬

大気・水資源・土壌保全

化学物質の管理活動

揮発性有機化合物の管理

揮発性有機化合物（VOC）対策は、一般社団法人日本自動車部品工業会（JAPIA）の行動計画に基づき、2010年度までに全VOC排出量を30%削減（2000年度比）することを目標とした活動を実施しました。その結果、2006年度までに98%削減することができ、2010年度には99%を達成、2022年度も99%を削減しました。

2022年度のVOC排出量

99%削減
(2000年度比)

地下水汚染

土壌・地下水汚染対策として、有機塩素系溶剤の使用を全廃し、現在は過去の有機塩素系溶剤の使用履歴と環境への影響をモニタリングしています。

有害大気汚染3物質の削減

有害大気汚染3物質^{*1}の排出量については、2006年度に100%削減を達成し、2022年度も維持しています。

2022年度の有害大気汚染3物質排出量

ゼロ維持
(2000年度比)

PRTR^{*2}対象物質の管理

ジャトコが取り扱う、PRTR対象化学物質の国内生産拠点合計の排出量と移動量は下表の通りです。

PRTR対象物質の取扱量と排出量（2022年度）

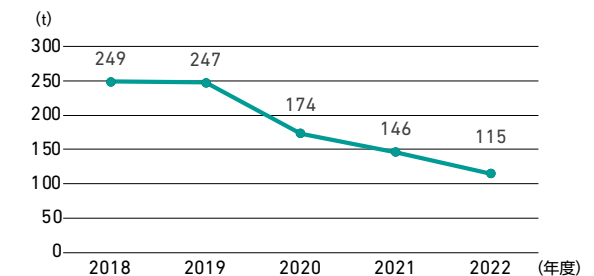
区分	科学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物
			大気	水質	土壌	
特定 第一種	ダイオキシン	0	21.3	0	0	0
	ベンゼン	800	1	0	0	0
第一種	エチルベンゼン	2,600	0.5	0	0	0
	キシレン	38,717	8.6	0	0	0
	1,2,4- トリメチルベンゼン	33,919	0.4	0	0	0
	1,3,5- トリメチルベンゼン	1,700	8.4	0	0	0
	ノルマル-ヘキサン	1,600	28	0	0	0
	トルエン	35,703	100	0	0	0

単位：kg（ダイオキシン類はmg-TEQ/Nm³）

^{*1} 有害大気汚染3物質：ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン

^{*2} PRTR：Pollutant Release and Transfer Registerの略。特定化学物質の環境への排出量の把握 および管理の改善の促進に関する法律

PRTR対象物質総取扱量（t）



環境コミュニケーション、生物多様性

積極的な情報公開を目指して

2005年から報告書を発行

ジャトコでは、環境に関する取り組みについて積極的な情報公開を心がけています。

当社の活動をステークホルダーのみならず広くご理解いただくために、2005年から継続して「環境報告書」を発行しています。2009年からは、社会とのかかわりについても情報を充実させて、「環境社会報告書」としました。2023年からはサステナビリティを経営活動の中核と捉え、あらゆる事業の活動やその他の活動を通じ経済の発展への貢献や社会課題の解決に努める取り組みについてよりわかりやすく情報発信するために、構成も刷新させ「サステナビリティレポート」としました。



ジャトコ公式サイト環境活動ページ（2022年度版）

地域社会とともに、環境を考え、育む

工場見学の受け入れ

開かれた工場を目指し、地域の小・中・高校生をはじめさまざまな団体の工場見学を受け入れています。工場見学では、生産工程ごとに出る廃棄物を細かく分別し、リサイクルできるものは新たな製品の原料として利用するなど、再生可能な資源を有効活用する3R（リデュース、リユース、リサイクル）への姿勢を紹介。さらに、実験装置を使って工場で発生する排水をきれいな水へ過する様子を体験できるプログラムを実施したりと、環境活動に関する取り組みを紹介しています。また、2021年度からは地域の小学校に向けたオンライン工場見学を実施。リアル工場見学ができない場合でもオンラインで工場見学が体験できる環境を整えています。



工場見学の様子

事務所周辺の清掃

ジャトコでは事業所単位で、社会貢献活動や環境保全活動を積極的に行っています。例えば、本社の東側を流れる滝川の土手の草刈りや彼岸花の球根植え付けを継続的に行っています。地元の有志と協働で遊歩道の整備を行い、地域の人々がウォーキングを楽しめる環境づくりを目指しています。栃木県の茂木地区にある事業所では、町の文化財保護のための美化活動を2020年から始め、地域の環境保全に取り組んでいます。



茂木文化財の清掃



滝川草刈り

環境コミュニケーション、生物多様性

生物多様性に配慮した活動の実施

ジヤトコは毎年6月の環境月間に合わせ、富士市いまいづみ幼稚園のみなさまと一緒に、近隣の田宿川に鮎の稚魚を放流しています。1999年から始まったこの活動は、本社がある富士市を流れる田宿川の生態系の保護と、幼稚園のみなさまに環境意識を育んでほしいという思いで行われています。なお、放流する鮎の稚魚は、従業員が集めたアルミ缶の売却益で購入しています。この売却益は、岳南電車「ジヤトコ前」駅の花壇の整備などの社会貢献活動費にも充てられています。

その他にも、近隣の海岸清掃や川の水草刈り、土手の草刈り・球根の植え付けなどをNPOや近隣企業と協働で実施。

私たちの生活に「自然の恵み」をもたらす、生物多様性保全を目指しています。



鮎の稚魚放流



渋田川芝桜植栽



桂川清掃



渋田川清掃



田宿川水草刈り



三保真崎海岸清掃



事業

モノづくりを活かしたイノベーション

移動の可能性を広げるソリューション

エネルギー効率の追求

モノづくりの考え方

移動の可能性を広げるソリューション



コーポレートパーパス実現に向けて

ジヤトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を広げる」というコーポレートパーパスを掲げています。クルマ以外のモビリティにも、ジヤトコ独自の技術を活かしていくことで、さまざまな社会課題の解決につなげていきたいと考えています。それを具体化するために、新規事業推進部を中心に事業化に向けた可能性を検討しています。



電動アシスト付自転車ユニットの開発チーム 写真：Cycle Sports 提供

「モビリティの可能性を広げる」アントレプレナーシップの醸成

コーポレートパーパスに向かって継続的に成長していくために、ジヤトコは新しい価値や事業を創造し、リスクに挑戦していかなければなりません。その姿勢がアントレプレナーシップです。2022年より、経営企画部を中心にアントレプレナーシップ醸成のためのビジネスコンテストや全社イベントなどを実施。ビジネスコンテストでは、グローバルの従業員から新規事業創出に向けたアイデアを募集し、100件以上の応募がありました。経営層も交えて内容の検討を行っています。個人の柔軟性や変化への適応力が向上し、新たな機会や挑戦に対して積極的に取り組むことや、主体的に考え、行動し、自らのアイデアを実現することで、個人の成長や自己実現を追求することが狙いです。



アントレプレナーシップイベントの様子

移動の可能性を広げるソリューション

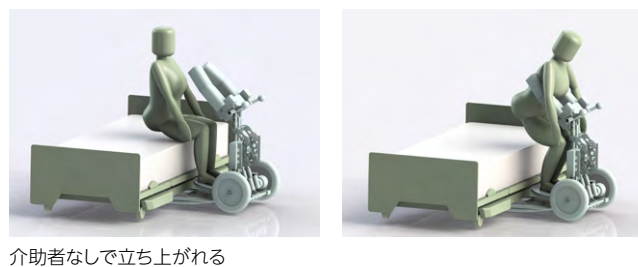
電動アシスト付自転車ユニットの開発

独自技術でアシストモーターと変速機構を一体化したドライブユニット。バッテリー残量や航続距離のモニタリング、アシスト量の変更などができるスマホアプリの開発も行っており、これらの取り組みをクルマの電動パワートレイン事業へ活かすことも考えています。



移乗機構付車いすの開発

ジャトコが開発中の移乗機構付車いすは移乗と移動の機能を一つにしています。クルマ事業の中で認識した介護現場の課題に対し、ロボット制御技術や人間工学を適用するとともに、実際の介護現場の声も聞きながら、介護の世界で求められている機能を織り込んでいます。



低圧風力発電用増速機（ナセル）の開発

低圧風力発電機のナセルは、翼の回転エネルギーを電気エネルギーに変換する部品です。中古の電気自動車の部品を転用し、当社で開発したギアを組み合わせたシステムを提案しました。ジャトコのギア技術の高さが静音につながるとともに、効率面でも寄与できます。



エネルギー効率の追求



ジャトコは、パワートレインの専門メーカーとして、よりエネルギー効率の高いユニットを提供すべく、常に技術を磨き、環境性能と動力性能を両立させた商品を提供してきました。この技術は、今後市場投入する電動パワートレインにもしっかりと活かしていきます。

Jatco CVT-X

環境性能と運転性を飛躍的に進化させた CVT

Jatco CVT-Xは当社がトランスミッションの専門メーカーとして技術の限界に挑んだ商品で、環境性能と運転性が飛躍的に向上しています。高い燃費性能を実現するダウンサイジングターボエンジンとの組み合わせにも対応し、徹底的なフリクション低減を実現などの特長を備えています。CVTとしては難しいとされていた伝達効率90%の壁を越え、これまでにないレベルの完成度を実現しました。

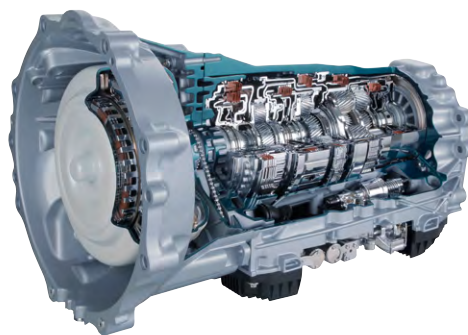


JR913E

燃費性能と運転性能を両立した9速AT

理想的なギア比の設定、レスポンスの良い変速を実現する油圧システムを構築した、高効率・高応答なFR車用オートマチックトランスミッション「JR913E」を開発しました。「JR913E」はトランスミッションケースにマグネシウムを、トランスミッション周りのボルトにアルミを、オイルパンに樹脂を採用し軽量化を実現しました。

さらに、オイルポンプやギア、クラッチなどのメカニカルロスをも最小限に抑え、走行条件に応じてトランスミッション内の潤滑流量を各構成部品に最適に供給することで燃費向上に貢献しています。



部品単位での重量削減

エネルギー効率を上げ、燃費性能を向上させるには、部品単位の重量削減が求められます。中でも、CVTのプーリーは非常に重い部品であるため、その重量削減は重要な課題です。従来、パークギアと固定側プーリーを一体鍛造とすることで重量削減を行っていましたが、さらにパークギア部の歯底をなくすことにより、一層の重量削減を実現しました。

ジャトコは、このような技術の積み重ねにより、継続的に、ユニットおよび搭載車両のエネルギー効率の向上に取り組んでいます。

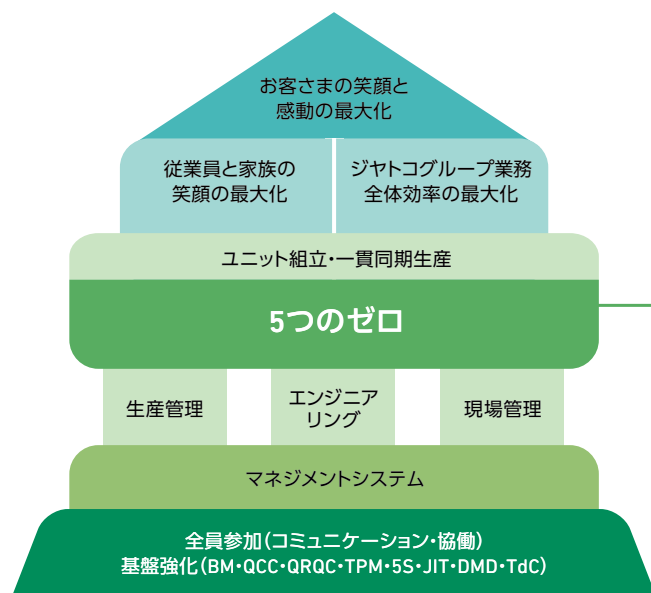


モノづくりの考え方

お客さま視点で目指す「世界No.1のモノづくり」

お客さまの変化に限りなく早く対応し、品質（Quality）、時間（Time）、コスト（Cost）における世界No.1のモノづくりを目指し、ジャトコでは独自の生産方式「JEPS」（JATCO Excellent Production System）を構築・運用しています。JEPSは、素材仕入から加工、そして組立から出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同じスピード・同じ順序で稼働させタイムリーな生産・運搬を行うことで、一切のムダを排除するシステムです。

JEPS活動概念図



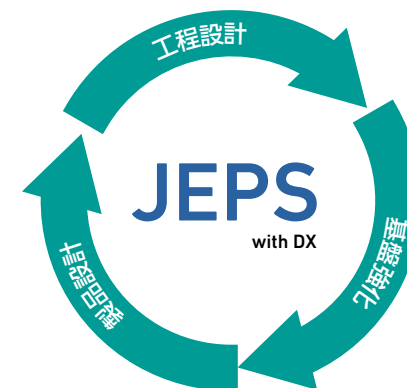
JEPS活動

JEPSにより、サプライチェーン全体で「限りないお客さまへの同期」と「限りない課題の顕在化と改革」という2つの「限りない」を実現します。

JEPSイノベーションを推進

JEPSの基本的考え方は、「限りないお客さまへの同期」と「限りない課題の顕在化と改革」の2つに集約されています。この2つの「限りない」を追求するため、ジャトコでは「5つのゼロ」を明確な指標と定め、その実現を目指しJEPSの改善を続け、省エネルギー・省資源化を推進しています。

5つのゼロ



SQTCE*すべての領域で競争力向上にチャレンジします

生まれの良いモノづくりの実現（MPサイクル）

量産後「品質リスク」を残さない品質設計と計画通りの結果を出す工程設計を進めます。

DXツール開発&活用による高効率寄与

さまざまな停止ロスの最小化（点検、測定、調整等）問題の予知・予防、クイックアクションを行います。

全員参加TPMによる基盤強化で結果を出す

限りない改善の実行と設備に強い人材育成（製造、保全、技術、品証、etc.）を行います。

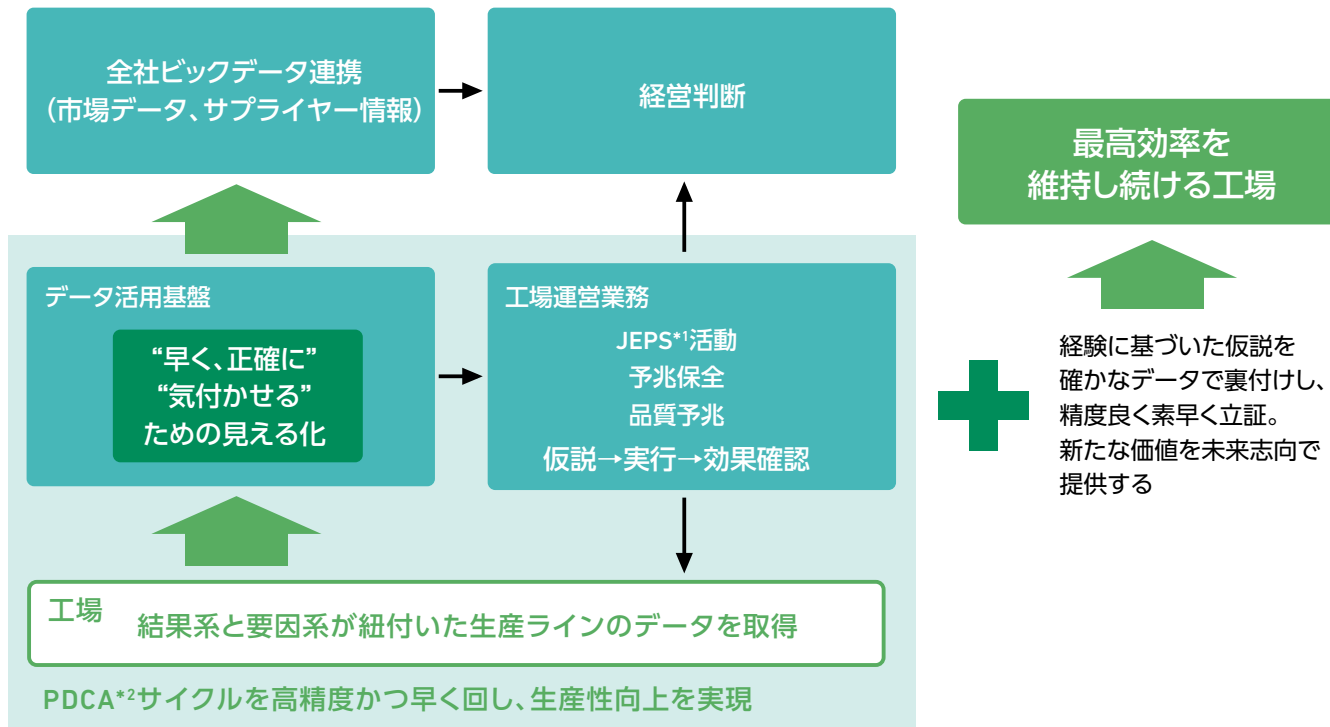
*Safety, Quality, Time, Cost, Environment

モノづくりの考え方

スマートファクトリーを目指す

ジャトコは工場のスマートファクトリー化を目指しています。デジタルソリューション部を中心に、モノづくりのDX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、生産性向上や省エネルギーを促進しています。

ジャトコのスマートファクトリー構想



*1 JATCO Excellent Production System

*2 Plan-Do-Check-Act

設備の稼働状況を可視化

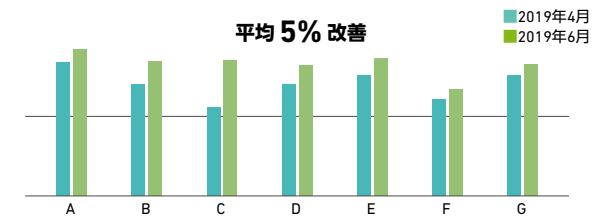
ジャトコの工場は素材仕入れ、加工、組立、検査、出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同期させることで、一切の無駄を排除するシステムを組んでいます。途中で生じたエラーにより生産が止まれば次の工程、またその次の工程へと影響が出てしまいます。そうした影響をなくすためにも、生産工程の設備状態を常時見えるようにすることで「止まらない工場」を目指しています。職場で発生した品質問題などを直ちに解決するQRQC*を基本とし、稼働状況が一目で分かる稼働管理ソフトウェアを内製で作成。これにより、チョコ停や故障などの現象を素早く把握し対策を打つことで、生産ロスを減らすことが可能になりました。稼働モニターの導入により、生産ラインの効率が5%向上しました。



稼働管理ソフトウェアを使ったQRQCの様子

ジャトコは究極の効率と品質を目指し、デジタル技術の幅を広げながらスマートファクトリーを実現するとともに、1台のユニットを製造するために消費するエネルギーを最大限削減し、カーボンニュートラルの実現に寄与します。

モニター導入による生産ライン稼働率向上例



*Quick Response Quality Control

モノづくりの考え方

ジャトコは、製品および事業活動におけるエネルギー効率の追求により、社会の環境負荷低減に貢献しています。

バーチャル評価による環境負荷低減

実際にクルマを走行させたときに各機能部品に起こる現象をコンピュータでシミュレーション予測することで、これまで実車で実験していたものをバーチャル実験（HILS*など）に置き換えています。また、新たに織り込む制御システムなどもバーチャル上で確認することで、実車に搭載した際に手戻りなく開発できるようになりました。これらバーチャル評価が進むことで、開発期間が短縮できることはもちろん、実車を使った実験が減り、試作品の削減や実験用燃料の削減など環境への効果もあります。

また、システムズエンジニアリングの手法を既存製品や次世代商品に適用し、グローバルに展開することによって50%の手戻り

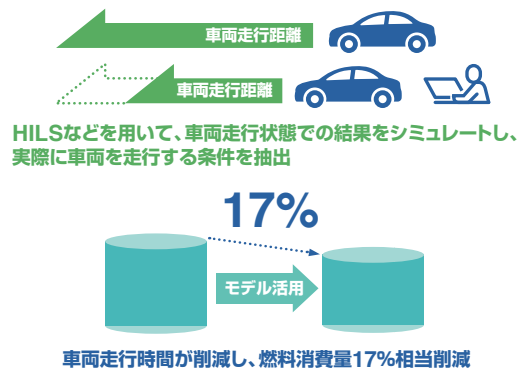
率改善が見込まれ、開発期間の短縮だけでなくフィジカル実験の削減によるガソリン使用量の削減にも貢献しています。

*Hardware In The Loop Simulation



HILSを使ったバーチャル評価

バーチャル実験による効果例



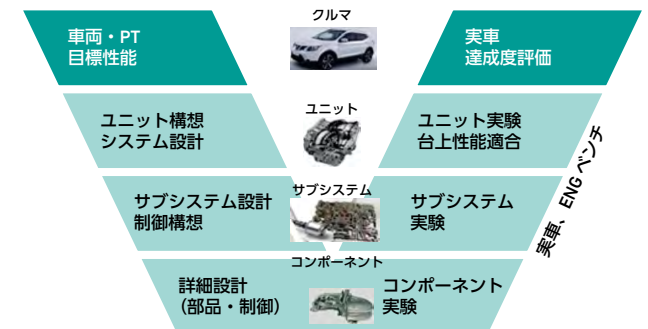
MBD 推進センターなど外部団体への参画によるSDGsなどへの貢献

モノづくりの輪を広げ、日本の自動車産業の発展に貢献するため、ジャトコは、国内自動車メーカー、部品メーカーからなるMBD推進センターへ参画しています。MBD推進センターに参画することにより、大学などが創出したモデルを自動車メーカーと部品メーカーがすり合わせ、開発に同じモデルを用い高効率化することで、手戻りのない、世界一の開発効率を実現することを目指しています。

これにより、カーボンニュートラル対応やCASE等の車両技術革新を推進し、SDGsなどに貢献しています。

システムズエンジニアリングのVプロセスによる開発

設計と実験の繰り返しを削減するため、システムズエンジニアリングのVプロセスの考えを導入しました。MBD（Model Based Development：モデルベース開発）手法を用い、バーチャルによる開発に取り組んでいます。





社会

地域社会との共生および発展への貢献

コミュニティの発展

社会貢献活動

コミュニティの発展

地域社会のみなさまとともに

ジャトコグループは、地域社会に愛される「よき企業市民」となることを目指しています。企業活動は地域社会とのかかわりの中で営まれるものであり、コミュニティの一員として主体的に社会とかわり、さまざまな形で地域社会に貢献することが重要な責務と考えます。

ジャトコグループの技術やアセットを活かした地域課題解決に積極的に参画することで「その地域にあってよかった」と思っていただけことは企業にとっても有益であり、地域と企業が互いに成長し発展していくことにつながります。例えば、自動車の技術を活かして電動自転車用ドライブユニットを新たに開発し、地域が抱える観光振興や健康増進などの地域課題解決とともにチャレンジしたり、クルマのギアの仕組みを通じて子どもたちに考えることや動くモノの楽しさを体験してもらう機会を設けたりしています。

複雑化する社会課題に対応しながら、ジャトコグループは常に地域社会との共生を目指します。



花咲く*ジャトコ前駅プロジェクト



ジャトコの技術を活かした電動車椅子サッカー大会サポート



ギアのしくみと楽しさを子どもたちへ



富士市での電動自転車の試乗会

社会貢献活動

3つの重点分野「環境」「教育」「福祉」

ジャトコグループは、地域社会への貢献の取り組みとして「環境」「教育」「福祉」の3つの重点分野を設定し、活動しています。



環境への貢献活動

富士市役所と共同で海岸清掃から富士山頂までの登山ルートでの清掃活動を、ボランティアメンバーを募り実施しています。世界遺産の「富士山」の環境を守るだけでなく生態系の保護にも貢献しています。



富士山グリーンルート3776の様子

教育への貢献活動

ジャトコグループでは、地域の学校と連携し、子供たちの育成のお手伝いをしています。地域の中学校へ社員が講師として伺い、工場の製造工程別を動画で紹介。仕事への想い、やりがい、苦労などを語りました。実社会の様子を知ってもらう機会をつくり、子供たちの今後のキャリア形成に役立つことを願っています。



掛川市立北中学校での講義の様子

福祉への貢献活動

知的障がいを持ったサッカー選手たちは、練習の成果を発揮するチャンスが限られています。そこでジャトコは、横浜F・マリノスと共同で、「ジャトコ×横浜F・マリノスフットワークカップ（現ジャトコカップ）」を2015年度から開催してきました。多くの知的障がいを持つ選手とそのチームが、本大会への出場を目標とし、改めてサッカーの楽しさを知るきっかけになるよう、サポートを続けます。



知的障がい者のサッカー大会の様子

社会貢献活動

グローバルで17,000人が参加

ジャトコグループの社会貢献活動はグローバルに行われており、世界中でそれぞれの地域ニーズに合った活動に取り組んでいます。2022年度は、グローバル全体で17,000人の従業員が参加。「環境」「教育」「福祉」各分野の代表的な活動を紹介します。

活動事例（一例）

分野	活動事例	地域
教育	キッズエンジニア	日本
	中・高校企業訪問プログラム	日本
	学校への出前講座	日本
	職業講話	日本
	幼稚園への絵本寄贈	日本
	定時制高等教育提供	メキシコ
	ウェビナー品質教育プログラム	アメリカ・メキシコ・中国
	学校への学用品提供	アメリカ・メキシコ・中国
	子供向けモノづくりイベント	中国
	地元学校との産学協同連携「ジャトコクラス」	中国
環境	富士山グリーンルート3776清掃	日本
	田宿川水草刈り	日本
	茂木町文化財清掃活動	日本
	三保真崎海岸清掃活動	日本
	吉富駅清掃	日本
	渋田川清掃	日本
	花咲く*ジャトコ前駅プロジェクト	日本
	サン・ペドロ川清掃	メキシコ
	張家港湾-環境保護活動	中国
	広州南沙浜海公園	中国
	張家港湾-環境保護活動	中国
	廃棄物リサイクル活動	中国
	安養川清掃活動	韓国
	ハーブを植える活動	タイ
	ペットボトルキャップリサイクル	フランス、韓国、日本

分野	活動事例	地域
福祉	ウクライナ支援	日本
	回収アルミ缶売却益による寄付	日本
	南アジアへ絵本を届ける運動	日本
	ステナイ生活	日本
	盲導犬協会へ物品寄付	日本
	富士市フードバンクへ寄付	日本
	電動車椅子サッカーサポート	日本
	知的障がい者サッカーサポート	日本
	スポーツ用品寄付	メキシコ
	巡礼者への食糧寄付	メキシコ
	困窮者への物品配布	メキシコ
	ヘアドネーション	メキシコ
	クリスマスカード配布	メキシコ
	食料品配給ボランティア	アメリカ・メキシコ・韓国
	義援金・資源回収による寄付	アメリカ・メキシコ・韓国
	子供たちへクリスマスプレゼント寄付	アメリカ
	中古PCの寄付	フランス
	使用済み電池の寄付	フランス
	飲料パックを困窮者の屋根材にする活動	タイ
	寺院への使用済み宝くじ寄付	タイ
	動物園ボランティア	中国
	動物保護団体へのタオル寄附	韓国
	練炭配布ボランティア	韓国



サン・ペドロ川清掃（ジャトコ メキシコ社）



学用品寄付（ジャトコ 米国会社）



練炭配布ボランティア（ジャトコ 韓国エンジニアリング社/ジャトコ 韓国サービス社）



食料配布会（ジャトコ米国会社）

A photograph showing the silhouettes of five business professionals (three men and two women) walking from left to right across a flat rooftop. They are carrying briefcases or bags. The background is a dramatic sky at sunset or sunrise, with a bright sun low on the horizon creating a strong orange glow and long shadows. The sky is filled with soft, white and pinkish clouds.

人的資本

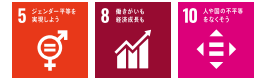
ダイバーシティの推進と社員の幸福の 向上

ダイバーシティ&インクルージョン

人財育成

労働安全衛生

ダイバーシティ&インクルージョン



ジャトコのダイバーシティ

時代の変化に対応しながらグローバルにビジネスを展開し、ジャトコが成長していくために、ダイバーシティを従業員が大切にする価値観の一つとして位置づけています。ジャトコのダイバーシティは、多様な価値観を持った従業員が共存し、互いを尊重しながら意見を交わすことで、新しい発想が生まれ、より良い価値をお客さまに提供することを方針とし、さまざまな取り組みを行っています。

働き方の多様性

ジャトコでは全ての従業員のクオリティ・オブ・ライフ（QoL）向上のため、仕事の生産性の向上と共に、誰もが安心していきいきと働ける職場環境の構築を目指しています。フレックスタイム制度や育児、介護、不妊治療など幅広い視点からの家族サポートを目的としたライフサポート休暇、在宅勤務制度、勤務間インターバル制度などを早い時期から導入し、多くの従業員が実際に活用しています。その実績が高く評価され、2015年7月、改正次世代育成支援対策推進法に基づく特例認定（通称：プラチナくるみん認定）を受けました。また、2016年3月には経済産業省より、多様な人財を活かし、その能力が最大限に発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている事例が「新ダイバーシティ経営企業100選」に認定されました。いずれも、静岡県に本社を置く企業として初めての認定・選定となりました。



改正次世代育成支援対策推進法 特例認定マーク。
通称「プラチナくるみん」



「新・ダイバーシティ経営企業100選」ロゴマーク

女性の活躍推進

ジャトコはダイバーシティ推進の一つの柱として、女性活躍推進に取り組んでいます。管理職に占める女性比率は現在4.8%（2022年度）で、厚生労働省が発表する産業ごとの管理職に占める女性の割合の平均値（2.6%）を上回っており、2025年度までに7%達成することを目標に掲げて育成に力を入れています。男性社員の育休取得による育児参加も推奨しており、2022年度の男性育休取得率実績16.5%から、さらなる向上を目指して取り組んでいます。また、製造現場における女性活躍も進めており、ダイバーシティラインでは、女性がリーダーシップを発揮し、誰もが働きやすい生産ラインを実現しています。



多様な国籍の人財が活躍

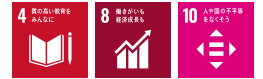
ジャトコでは国籍にとらわれない人財配置や、海外拠点との人財・技術交流を積極的に推進し、日本においても中国・韓国・メキシコ・タイなどさまざまな国籍の従業員が活躍しています。多様な価値観を持った従業員同士が同じ職場で働き、お互いが新しい気付きを得て成長することで、お客さまへの新しい価値の提供につながると考え、人財育成を目的とした海外拠点とのグローバル人財交流プログラムなども積極的に実施しています。

障がい者の活躍推進

ジャトコでは障がい者の方の働く力にマッチングする人財配置を重視し、職域を絞らず雇用しています。また、多様な働き方、多様な人財が働きやすい職場の設置（ダイバーシティライン、屋内農園）が、いきいきと長く活躍できる新しい価値の提供につながっています。障がい者雇用率は現在2.47%（2022年度）と法定雇用率の2.3%を超えており、また定着率も9割を超えています。



人財育成



従業員と会社の相互成長の実現

ジャトコは、従業員一人ひとりが会社を構成する重要な人的資本であると捉え、それぞれが自身の成長と働きがいにより実感できる会社になることを目指し、従業員一人ひとりの多様性を尊重しながら、人財育成に積極的に取り組んでいます。

従業員は、実務における役割実践・課題解決による成長だけでなく、役割に応じた能力開発プログラムや問題解決・コミュニケーションスキルの研修など、継続的に提供される幅広い成長機会を最大限活用するとともに、上司も面談プログラムや継続的なOJTなどを通じて、従業員の成長を支援しています。

また社会人としての第一歩をジャトコで踏み出した新入社員に対しては、先輩が日常の相談や、指導・アドバイスを行う「フレッシュマンリーダー制度」を導入しており、配属後の職場で充実した会社生活を送り、安心して業務課題にもチャレンジできるよう、サポートしています。

早期にグローバルマインドを醸成

ジャトコでは、グローバルビジネスに対応できる人財育成に取り組んでいます。入社2年目の社員を対象とした海外研修では、言葉や文化が全く異なる環境の中で、さまざまな課題にチャレンジすることで、グローバルマインドや継続した自己成長意欲を醸成しています。

また海外拠点との人財交流も積極的に推進しており、若手従業員を数か月～1年間、海外拠点に派遣する短期派遣プログラムでは、業務だけでなく日常生活も含めたさまざまな経験を通じて、海外拠点との強い関係を構築し、世界基準での感覚を身に着けることなどを目指しています。

近年では、DXツールの活用で、海外とのコミュニケーションも非常に容易になったことで、複数の海外拠点から、ONLINEで同時に参加できる新しいグローバル研修の運用も開始しています。



グローバル研修の様子

現場での改善力を競うQCサークル活動

ジャトコのQCサークルは、208サークル(2067人*)が小集団活動を通じた改善活動を行っています。活動方針を、運営の質を上げることと改善の数を確保することとし、「変化の先頭に立ち自ら変革を起こす」「原理原則で考える」「検証は数値化する」「改善を重ねて全員で成長する」ことを目指しています。

社内では、年間2回のジャトコグループQCサークル大会を開催し、改善事例の報告を行っています。大会にはメキシコ、タイ、中国の海外グループ会社も参加しています。この大会の上位サークルは、社外発表大会の静岡地区・東海支部、京滋地区・近畿支部、全国大会、日産グループ大会に参加し、改善成果を披露。これまでに多数の感動賞・支部長賞を受賞しています。

*2023年7月時点



外部のQCサークル大会に積極的に参加

人財育成

製造現場における多様な教育プログラム

変化し続ける環境の中で、ジャトコが、世界中のお客さまに競争力のある高い品質の商品を確実にお届けするためには、モノづくりの現場での技術・技能を常に向上させる必要があります。ジャトコでは、生産部門の従業員が、モノづくりの基本である技術・技能を高め続けることができるよう、入社時から管理監督者になるまでの、体系的な教育を実施しています。

新入社員研修

生産部門に配属される前に新入社員に色々な職場体験をしてもらいます。楽しみながら仕事に慣れ、ジャトコ従業員として、社会人としてのモラル、マナーとともに、モノづくりの基礎・基本をしっかり身につけます。社会貢献活動、さまざまな演習を通して仲間との絆を深めることや、価値ある商品をお客さまに提供するジャトコの使命も学びます。



スキルアップ研修



エッグバーン



基本技能競技大会

スキルアップ研修

モノづくりの基礎基本から各分野での専門スキルを段階的に身につけ、製造現場での実践につなげることができるよう、各職種について、スキルレベルに合わせた講座を設定しています。



初級：モノづくりの基本を理解し、責任をもった仕事ができるようになる。



中級：中堅リーダーとしての改善技能、管理能力の基礎を習得する。



上級：職場のリーダーとしての管理能力を推進する。

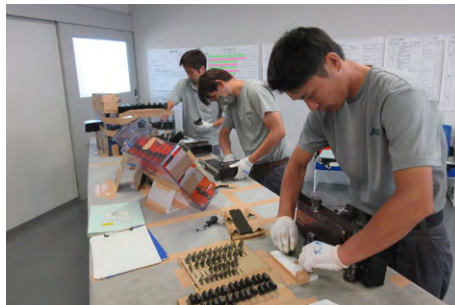
人財育成

指導職養講座

現場での経験を積んだ従業員が、職場のリーダーとして行動するための実践力を身につけます。指導者の指導やアドバイスを受けながら、「仕事の標準化」、「仕事の教え方」、「教えたあとの確認」等の管理サイクルを実践形式で学び、人への気付き、感受性や人間力を高め、コミュニケーションスキル・ヒューマンスキルの基本を学びます。



習熟計画と指導



目標に向けた実践



改善効果を確認し次に反映



定量的に反映、全員で共有

GMT/MT/RT*養成講座

新ユニットを計画通りに立ち上げるため、製造ラインで仕事を正しく教えることができる人財を養成します。GMT、MT、RTは、それぞれ役割に応じて、知識・技能・指導スキルなどについて認定の評価事項が定められています。海外拠点のMT、RTも同様の評価基準で認定されており、海外拠点でのユニット立ち上げに重要な役割を果たすとともに、ジャトコが世界各拠点で同一の高い品質を維持することに貢献しています。

現在、国内で15名のGMT、173名のMT、87名のRT、海外で12名のMT、12名のRTが活躍しています。

* GMT: Global Mater Trainer, MT: Master Trainer, RT: Regional Trainer

海外拠点のMT、RT



共通教育（メキシコ）



専門組立基本技能（タイ）



専門加工基本技能（メキシコ）

電動化に向けた人財育成

電動パワートレインメーカーとして、電動化商品に対応するための人財育成にも取り組んでいます。AT/CVTで培ったジャトコならではのモノづくりをベースに、電動化商品特有の機能、構造等を十分に理解し、電動化商品に求められる、より高度な安全性、品質を実現するための準備を着実に進めています。工場内には、電動化商品の訓練道場も設置しました。

労働安全衛生



安全絶対

1. 安全は、すべての作業に優先する。
2. 安全は、いかなる業務よりも重要である。
3. 安全絶対とは、当然に作業能率よりも優先であることを意味する。
4. 安全は作業能率の基盤であり、安全と能率は決して矛盾することはない。
5. 安全は、先ず、作業環境の整理整頓から始まる。

Jatco

「安全絶対」が合言葉

“災害ゼロから危険ゼロ”を目指すジャトコでは、職場のリスクアセスメント活動の活性化や従業員の健康管理を推進するなど、すべての従業員が安全で快適に働ける職場づくりを推進しています。安全の確保はすべての作業に優先するという認識から「安全絶対」を合言葉に掲げ、リスクアセスメント活動を始め、SESI^{*1}、5Sパトロール^{*2}、工場（課）安全パトロール、公開作業観察、安全専念観察などの「現場を観る活動」を中心に安全活動に取り組んでいます。特に重点を置いているのは、労働災害発生のリスクが高く、生産活動のロスでもある異常処理作業の撲滅です。各活動で検出されたリスクは、リストにして把握し、リスクの大きさに応じて対応の優先度や適切な対応策を決め、設備改善などのハード対策や、教育・指導などのソフト対策を迅速に実施しています。

^{*1} SESI：Safety Evaluation System Iの略。職場の安全レベルを定量的に評価するシステム

^{*2} 5Sパトロール：「整理、整頓、清掃、清潔、躰」の5Sが保たれるよう、定期的に現場を巡回する活動

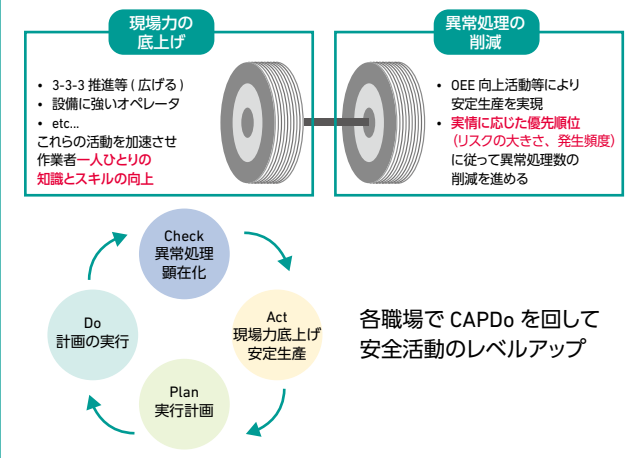


グローバルでSESを実施

異常処理による災害撲滅の進め方

- ・止める・呼ぶ・待つの実践
- ・異常処理撲滅の推進

両輪を回すことによって異常処理災害撲滅を加速する



異常処理撲滅を中心に、各職場でのリスクアセスメント活動を実行・推進

労働安全衛生

健康経営宣言

ジャトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「資産」であり、従業員がいきいきと働きやすい会社となることを目指して「ジャトコグループ『健康経営宣言』」を掲げています。

ジャトコグループ「健康経営宣言」

従業員一人ひとりがリーダーシップを発揮して、お客さまのニーズに応える先進的な商品を開発すること。モノづくりの技術を高め、世界の競合他社を上回る品質を実現すること。地域社会とのかかわりを大切に公正な事業を行い、地域の活性化に貢献すること。それら全ての原動力は、ジャトコグループ全従業員の活力です。

その活力は、従業員の心身の健康の上に成り立ちます。

ジャトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「財産」と捉え、従業員が生き生きと働くとともにプライベートも充実するよう、クオリティオブライフ（QOL）の向上を図ることで、従業員と企業の幸福の実現を目指します。従業員一人ひとりとそのご家族が健康であることが、ジャトコグループの持続的な発展の礎であるとともに、健康寿命の延伸などの社会要請に応えるものと考えます。

ジャトコグループは、重要な経営課題の一つとして、従業員一人ひとりの健康増進と健康で生き生きと働きやすい会社となるための活動に取り組み続けることを宣言します。

ジャトコ株式会社 社長兼最高経営責任者
佐藤 朋由

外部評価

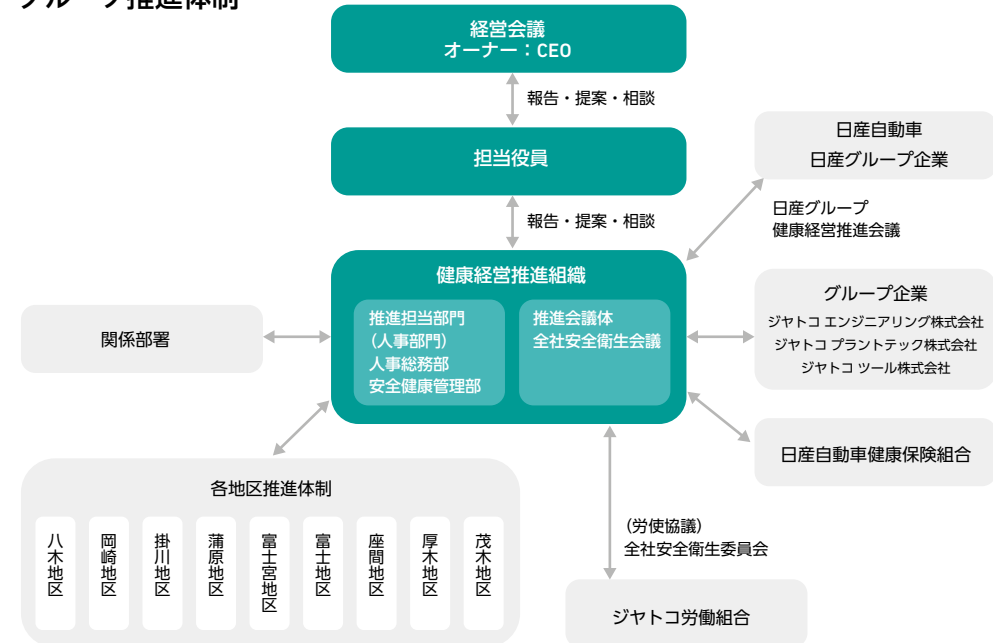
2019年から5年連続して「健康経営優良法人（ホワイト500）」認定を受けています。



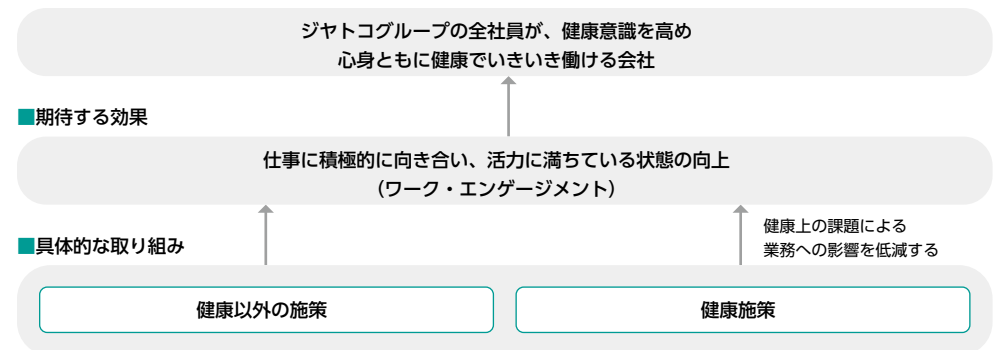
2020年から4年連続して「スポーツエールカンパニー」認定を受けています。



グループ推進体制



ありたい姿



労働安全衛生

社員の健康増進への取り組み

保健指導や食事・運動の啓発目的のイベント実施、職場訪問などを通じ生活習慣病・メタボリック症候群対策および従業員の健康リテラシーが向上することを目指して活動しています。又メンタルヘルス対策にも力を入れています。

産業保健スタッフは定期健診結果などデータに基づき、従業員の健康づくりに効果の見込まれるイベントを企画し、参加者のアンケートその他のフィードバックを生かして継続的改善を行っています。



グリーンハウス様とコラボレーションした食育イベントおよび野菜を取れるよう工夫したヘルシーメニュー



RIZAP(株)様とコラボレーションした運動イベント



職場訪問活動



事業基盤

誠実な経営と事業基盤

信頼される品質

人権

持続可能で責任ある調達

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

ステークホルダーエンゲージメント

災害対策（物理的ハザード）

情報セキュリティ

信頼される品質



製品安全および品質の方針・考え方

製品の評価やパワートレインメーカーのブランド価値は、お客さまからの品質評価で決まるといっても過言ではありません。技術革新がめざましい現在、お客さまが求める品質のレベルはますます高まっています。

世界経済の構図が大きく変化し、各地で都市化が進行する中、モビリティに対するニーズも増加しています。

ジャトコは、世界中の人々にモビリティがもたらす豊かさを提供する使命を果たすとともに、お客さまに満足していただける品質を常に提供することも電動パワートレインメーカーとしての重大な責務であると考えています。

ジャトコは、品質を会社全体の課題と捉え、製品の企画から開発、生産、物流、販売、アフターセールスなどお客さまとかわるすべてのシーンで、高い品質を提供するために活動を続け、お客さまに信頼される企業になることを目指しています。

「品質」への方針・考え方

品質の内容は多岐にわたります。

ジャトコでは、製品そのものの使用感から、製品に不具合が発生した際の対応など、製品にかかわるすべてのシーンで高い品質を提供するために、部署や地域を超えて連携しながら全社的に取り組んでいます。

ジャトコはお客さま中心の考えのもと、「長きにわたりジャトコ製製品をお選びいただくために、お客さまの声を第一に、深い満足を感じていただける製品やサービスの品質を向上すること」を目標に、「製品品質」と「サービス品質」の両面から取り組んでいます。

製品そのものの「製品品質」は、お客さまに長く安心して快適

に製品を使っていただくための基本となる品質です。

お客さまにお届けする製品の「初期品質」、長くお使いいただいている間に感じる「耐久品質」など、製品のライフサイクルすべてにおいてお客さまの期待に応えられるような品質の提供を目指しています。

また、お客さまへの対応の質を追求する「サービス品質」では、ディーラーでの点検や修理のしやすさを追求する活動を行っています。

すべてのプロセスにおいてお客さまに満足いただくために、ジャトコではお客さまの声を取り入れて、社内全体にフィードバックする取り組みを導入しています。

製品安全および品質のマネジメント

ジャトコは、お客さまの安全確保と常に満足していただける品質の提供が、重要な課題であると捉えています。信頼される企業として持続的な成長を実現するため、グローバルで品質向上の推進体制を構築し、全従業員が一丸となって活動に取り組んでいます。多岐にわたる品質向上活動の責任者やプロセスは、IATF16949に準拠した品質マネジメントシステムで明確に定められ、グローバルに適用されています。そしてそれらすべての品質項目に対して、品質管理の徹底につながるよう、必要に応じて適宜マニュアルを改訂しています。また、品質マネジメントシステムを構築し実施していくための指針についての研修を毎年実施。この研修は全従業員必須のものとしています。

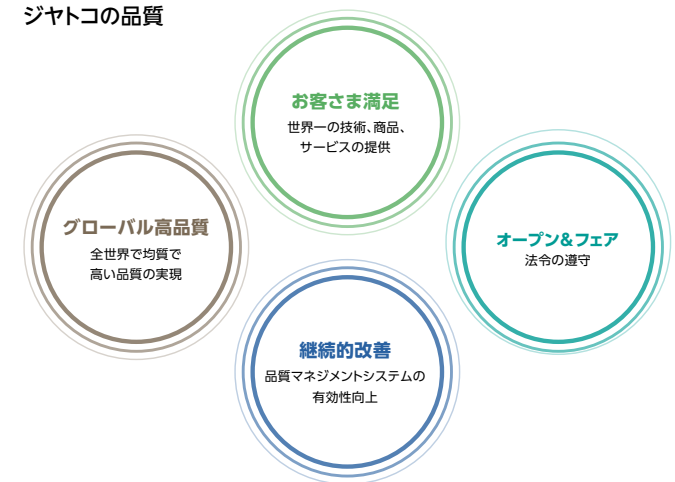
なお、生産拠点において、13全ての拠点がIATF16949の認証を取得しています。

製品安全および品質のマネジメント体制

ジャトコでは、品質においてトップレベルになるという目標を達成するため、品質最高責任者に品質専任の執行役員を選任しています。品質最高責任者を議長とする品質委員会を毎月開催し、各部門の役員が参加し、製品品質およびサービス品質の課題の迅速な解決と改善活動を推進しています。

また、コンプライアンスの徹底を実現するため、3層構造のモニタリング・監査体制を構築し、監査活動の強化に取り組んでいます。第1層は、各部門が法令や基準の遵守に責任を持ち、モニタリングを実施します。第2層は、コーポレート品質保証部が法令や基準の遵守に関して監査を実施します。第3層は、内部監査室がリスクに応じた年度計画に基づき監査を行います。

ジャトコの品質



信頼される品質

製品安全および品質への取り組み

お客さまの声を品質向上活動に反映

お客さまの期待する価値を提供するとともに、お客さまの感じる不満などに迅速に対応するため、お客さまからのすべての声に耳を傾け、開発からサービスに至るあらゆる品質の改善活動に反映させています。

お客さまの声への迅速な対応とタイムリーな情報共有

ジャトコでは、自動車メーカーを通じお客さまからの問い合わせや相談に応えています。

また、市場でのお客さまの声は、いつでも従業員が閲覧できるよう社内のイントラネットに掲載し共有しています。

お客さまの声を製品やサービスに反映

市場でのお客さまの声は、企画、開発、生産、販売など、あらゆる部門で確実に共有し、製品やサービスに反映する仕組みを整えています。故障ではないものの、お客さまが不満に感じている要素も製品の品質を左右します。ジャトコでは、お客さまの不満に応えることも品質向上活動の対象と捉え、改善に取り組んでいます。

お客さまが製品に求める期待値は、地域、年齢、嗜好などで異なり、製品の普及度や気候など市場特性の影響を受けることもあります。ジャトコはグローバルデザインを基本仕様としながらも、地域のニーズに合わせた対応も行っています。

この役割を担うのが、チーフクオリティエンジニア（CQE：Chief Quality Engineer）です。CQEは企画段階から製品づくりに参画し、お客さまの不満や不具合の低減に取り組んでいます。

お客さまの声は市場情報などから抽出し、企画・開発工程から優先順位を決めて対応策を検討して、製品やサービスに反映するように努めています。

お客さま視点を醸成するための取り組み

従業員一人ひとりがお客さまの視点に立ち、「お客さまに信頼され続ける高い品質の実現」を意識して業務に取り組むことが重要であると考え、マインド醸成の全社研修や日常的にお客さまの声に触れる機会を持つ取り組みなど、さまざまな活動を推進しています。

また、役員、従業員を対象として、品質の現状や市場のお客さまの声、お客さまの声からの改善活動、目標達成に向けての活動をパネルや映像、実際の部品の展示で紹介する「ジャトコクオリティフォーラム」を2006年より実施しています。開発からサービスにかかわるすべての部門で共催し、近年では、よりお客さま視点で考え、行動につなげられるよう、体感型のイベントを取り入れ、



2006年から実施する「ジャトコクオリティフォーラム」

全従業員のお客さま意識の醸成と品質の重要性を確認する取り組みを行っています。

「製品品質」の向上

「製品品質」とは、お客さまに長く安心して快適にご使用いただくための基本となる品質です。日本の“モノづくり”を担ってきたジャトコにとって、「製品品質」は企業の持続性を支える土台になるものです。常に品質をお客さま視点で考え、不具合が発生した場合は迅速に対応し、不具合の再発防止に努めています。また、お客さまの不満を確実に把握し、その解消に向けてあらゆるプロセスで対策活動を実施することで、一人でも多くのお客さまに満足いただけるよう「製品品質」を向上させています。

市場品質改善活動

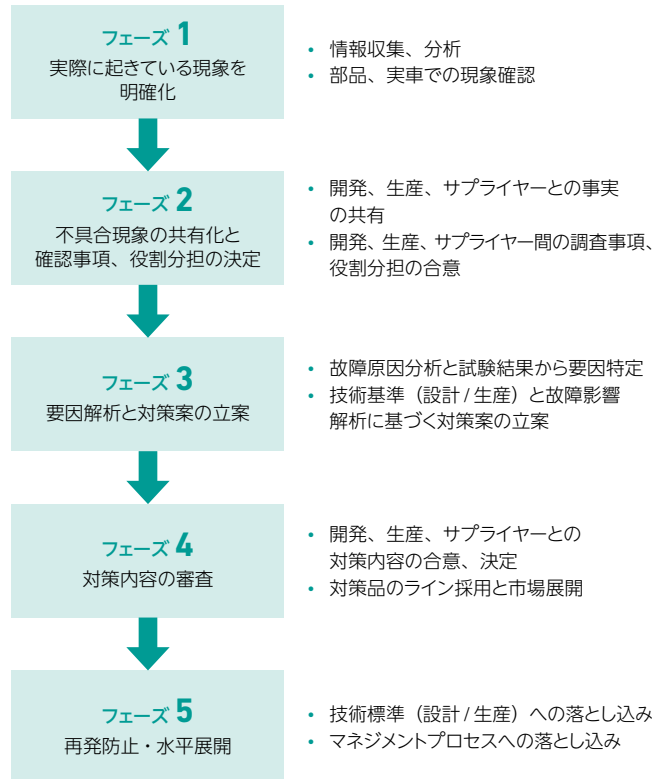
市場での迅速な品質改善への取り組み

ジャトコは、自動車メーカーを通じて販売会社や「お客さま相談室」などに入ったお客さまのご不満や不具合の状況を把握し、開発や生産部門と情報を共有し、原因究明・対策検討などを実施して、不具合の流出防止を促進するなど、恒久的な対策をとっています。

また、ジャトコの企業活動がグローバルに拡大するのに伴い、ご不満や不具合も世界各地で発生する可能性があります。そうした不具合を現地で迅速に解析し要因を分析するため、ジャトコでは日本、米国、欧州、中国、韓国、メキシコ、タイの計7カ所に調査拠点を設けています。同調査拠点では5つのフェーズに分けて市場品質の調査・解析活動を実施しています。

信頼される品質

5つのフェーズでの市場品質調査・解析活動の概念図



初期品質の向上

お客さまに高品質の製品をお届けするための取り組みを強化しています。品質が改善できていることを工程ごとに確認し、発生する可能性のあるリスクも企画段階から可視化してリスクを緩和する方策を検討しています。こうしたすべてのプロセスを透明性のある判断で実施することで、新製品立ち上げ時から高品質を保証しています。

耐久品質の改善

お客さまに長く快適にクルマに乗り続けていただくために、長年の使用によって生じる経時劣化に対する取り組みを推進しています。ジャトコでは保証期間中はもちろん、保証期間後に発生する不具合も低減するため、実際にお客さまが使用された中古車・部品を回収して品質確認を実施し、不具合の早期検出に活用するなど、さまざまなデータを入手・分析し、劣化しにくい技術の開発を強化しています。

重大な不具合への公正・迅速な対応について

製品の不具合を発生させないよう最善を尽くすことが責務と捉えると同時に、複雑な工業製品であるパワートレインづくりにおいて、万が一のときに備えることも私たちの責務です。ジャトコでは透明で公正・迅速な対応を基本姿勢としています。具体的には、お客さまの安全確保とお客さまへの迷惑を最小限に抑えること、法令遵守を最優先に、迅速な改修につなげています。

サプライヤーとの取り組み

部品の品質や供給に関するリスク対応を含め、ジャトコはサプライヤーと協働しながら、すべての生産拠点において、部品の設計段階から品質向上に取り組んでいます。

サプライヤーと推進するリスク評価・低減のマネジメント

グローバル品質マネジメントの強化を進めるとともに、サプライヤー各拠点における生産工程の品質管理状況を現場・現物で確認し、ジャトコの要求レベルを満たすことができるようにサプライヤーの改善活動を支援しています。

また、ジャトコへ部品納入しているサプライヤーのみならず、その構成部品を生産する二次サプライヤーまで巻き込んだ共同改善活動を行うなど、さまざまな品質向上策に取り組んでいます。

信頼される品質

製品安全・品質向上のためのサプライヤーの監査・トレーニング

ジヤトコは、製品安全を確保するため、製品のみならず納入部品についても、サプライヤーと協働しながら監査を実施しています。

サプライヤーからひとつの部品がジヤトコに納品されるまでには、企画段階の確認から、設計の図面製作、試作品づくり、性能確認、量産体制の確保など、さまざまな工程が必要です。ジヤトコでは、この一連の流れにおいて必要な品質保証活動を取引先のための品質管理基準として規定し、すべての部品、一つひとつにおいて実行することで正確な部品が納品される仕組みを整えています。ジヤトコでは独自のサプライヤー品質評価基準であるサプライヤーヘルスチェックに準拠しサプライヤーの支援を行っています。良品・不良品の明確な識別方法の有無、トラブル防止の仕組みの確認など、サプライヤーの作業現場を確認します。

また、製造工程のみならず、部品材料についてもサプライヤーと連携した品質管理体制により、すべての部品について材料認証を取得していることを確認しています。すべてのサプライヤーには取引先のための品質管理基準のトレーニングを実施し、サプライヤー内で展開、実行することで、正確な部品が納入される体制を構築しています。

また、「サプライヤースコアカード」による納品品質や市場品質などの診断と、マネジメント体制を確認するサプライヤー工場監査を実施しています。これにより、良質な部品の安定供給の仕組みや継続的な品質改善活動の実施状況を定期的に確認しています。

「サービス品質」の向上

ジヤトコでは、点検・修理方法の最適化に取り組んでいます。

具体的には、交換部品を最小限に抑えることによるお客さま負担の軽減や、点検、修理方法の最適化によるディーラーの修理負担の軽減など、早く・安く・確実な修理方法を提供しています。

人権

人権についての考え方

ジャトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスを実現するために、すべてのステークホルダーの人権を尊重すること、適用される法令、基準を遵守すること、ならびに当社の従業員が社内規則に定められた最高の倫理基準に基づいて行動することが不可欠であると認識しています。また、世界人権宣言（UDHR）をはじめ、市民的及び政治的権利に関する国際規約（ICCPR）、経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（ICESCR）、労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関宣言（ILO 中核的労働基準）に記載された人権を尊重します。そのために、私たちの事業活動から生じる可能性のあるリスクを管理し、すべての人権への影響を積極的に防止するために、国連のビジネスと人権に関する指導原則（UNGPs）を参照すべき国際的基準と位置づけ、これに則り人権尊重に取り組めます。ジャトコは、従来、「グローバル行動規範」の中で、あらゆる差別を容認しないという考えを明記してきました。この人権尊重に関する考え方をサプライチェーンも含め、より明確かつ強固なものにするために「人権尊重に関する基本方針」や、各国・地域のジャトコの従業員がより安心して働けるように、人権に対するコミットメントを説明し、あらゆる事業活動において人権が尊重されることを目的とした「グローバル人権ガイドライン」の整備に取り組んでいます。

人権に対する取り組み

人権に関する活動を進めるにあたっては、ジャトコの全役員、従業員が、当社の「グローバル行動規範」が規定する原則を理解、実践することが、重要だと考えています。そのため、定期的な教育を実施し、行動規範の原則を正しく理解できるようにしています。例えば、グローバルの従業員を対象に行動規範の教育をe-learningで毎年実施しています。日本では、管理職を対象にハラスメント研修を毎年実施しています。また、人権に対する悪影響を未然に防ぐため、日産グループの企業として、人権デューディリジェンスプロセスを実施し、リスク管理を行っています。人権に関する課題やリスクは、必要に応じて当社の経営会議で議論されます。また、人権に関する取り組みを、自社の活動を越えた範囲で実施することの重要性を認識しており、グローバルなサプライチェーンのすべての段階において、倫理的かつ社会・環境に配慮した事業活動を実現することを目標としています。この目標を達成するために、私たちはサプライヤーや委託業者を含む全てのビジネスパートナーと協力し、人権に配慮した事業展開を実践しています。

社会性データ

		(年度)			
ジャトコ株式会社		単位	2020	2021	2022
従業員数		人	5,399	5,250	5,000
	男性		4,956	4,811	4,570
	女性	人	443	439	430
平均年齢		歳	43	44	44
	男性		44	44	44
	女性	歳	38	39	39
勤続年数		年	20.3	20.8	21.0
	男性		20.4	21.4	21.8
	女性	年	14.6	16.4	15.9
障がい者雇用率		%	2.26%	2.48%	2.47%
男性の育児休職取得率		%	0.9	0.9	16.5
育児休職取得後の復職率		%	95.8	95.7	100
	男性		100	100	100
	女性	%	95.7	95.5	100
年休取得日数		日	14.7	18.8	16.8
平均残業時間		時間/月	11.9	17.7	17.9
女性管理職	人数	人	13	13	13
	比率	%	4.5%	4.6%	4.8%
新規採用人数		人	69	45	50
	男性		58	38	42
	女性	人	11	7	8

* 男性の育児休職取得率=対象年度に育児休職を1日以上取得した男性従業員÷対象年度に配偶者が出産した男性従業員数

* 組合員総数は、一般従業員、シニア組合員（定年退職後の再雇用者）含む

持続可能で責任ある調達



サプライチェーンに対する ジャトコの基本的な考え方

ジャトコは法令や人権を守り、さまざまなステークホルダーとコミュニケーションをとりながら、刻々と変化する社会や環境へ配慮し、企業としての責任を果たしていくことを目指しています。

また、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスのもと、新規事業にもチャレンジしており、今後もお客さまは全世界に広がり続けます。

そのお客さまに提供する製品やサービスは、ビジネスパートナーである多くのサプライヤーの協力によって成り立っています。

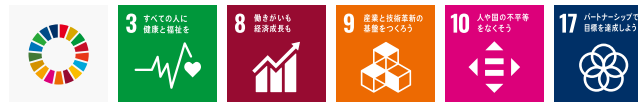
ジャトコが自らの企業責任を果たすためには、ジャトコのビジョンや方針をサプライヤーと共有し、共感していただくことが重要と考えています。

サプライヤーとの相互信頼を深めるために

ジャトコは2022年に「パートナーシップ構築宣言」の趣旨に賛同し、宣言書に署名しています。

この宣言に従い、ジャトコはサプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携を図るとともに、サプライヤーとのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組みます。

この宣言を遵守することより、SDGs の下記の5つの目標達成にも貢献しています。



また、ジャトコの企業活動はサプライヤーとの信頼関係で成り立っており、双方に有益となる長期的なビジネスパートナーシップを築いてこそ、ジャトコが掲げる目標を達成できると考えています。

そのためには、ジャトコと直接取引していただいている多くのTier1サプライヤー、また間接的に取引のあるTier2以降のサプライヤーのみなさまと、当社のビジョンや方針、企業責任を明文化して共有し、サプライヤーのみなさまにもご理解いただくことが重要です。

そのために、JATCO Purchasing Wayの基本原則－「信頼」「相手への敬意」「透明性」－に基づいた「企業としてあるべき価値観」をさまざまなガイドラインとして設定し相互理解に基づくサプライチェーンの構築を図っています。

カーボンニュートラルへの取り組み

ジャトコは2013年を起点に、CO₂排出量を2030年に46%削減、2050年ゼロを目標としています。

ジャトコの取り組みの範囲は自社事業所での活動はもちろん、サプライチェーンを含めたカーボンニュートラルの実現を目指しています。

カーボンニュートラルに向けた活動は今後も加速しますが、環境改善パートナーであるサプライヤーと協働してCO₂排出量を削減し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

サプライヤーのBCPへの協力と被災時の支援

ジャトコはこれまでもサプライヤーと一体となったBCPによって、予測できない自然災害の発生に対応できるサプライチェーンを構築してきました。

近年は自然災害や、感染症パンデミックによる休業や操業停止など、影響が広範囲・長期化する事案が頻発しており、サプライチェーンのさらなる強化が求められています。

ジャトコは有事の際の人道支援・人命救助や事業の復旧支援はもちろん、平時もさまざまな取り組みでサプライヤーのBCPに対する支援を行い、サプライチェーンの安定化に努めています。

持続可能で責任ある調達

サプライチェーンでのガイドライン

JATCO Purchasing Way

ジャトコが掲げる目標は、サプライヤーのみなさまとともにパフォーマンスの向上や成長、利益創出に向けて、双方に有益となる長期的なビジネスパートナーシップを築いてこそ達成することができます。

ジャトコには、サプライヤーのみなさまとともに、最適なサプライチェーンを構築するためのノウハウやツール、プロセスなどがあります。

この考えに基づき、サプライヤーのみなさまが最大のパフォーマンスを発揮できるよう、ジャトコの調達部門が、取引を行うにあたって大事にしている価値とプロセスをこの文書にまとめました。

私たちはこの価値とプロセスを通じ、サプライヤーのみなさまとの協力関係を築き、サポートをしていくことをお約束します。このような関係は、ジャトコならではの強みであると自負しています。



JATCO Purchasing Way

サプライヤー CSR ガイドライン

継続的・発展的な企業の社会的責任を果たすための要素を、「コンプライアンス」「安全と品質」「人権と労働」「環境」「情報開示」の観点から、配慮・対応すべき重要な事項を解説し、これらの社会的な課題について、サプライヤー各社での取り組みを促しています。

また人権や環境の側面から環境負荷物質や紛争鉱物への管理体制の構築も併せてお願いしています。



ジャトコ サプライヤーCSRガイドライン

グリーン調達ガイドライン

ジャトコは「環境とクルマが共生できる社会の実現」という環境方針に従い製品の開発から原材料調達、製造、輸送、使用、廃棄、リサイクルにいたるライフサイクルにおいて、環境に配慮した取り組みを推進しています。

そのため、サプライヤーと共有すべき方針や基準を「グリーン調達ガイドライン」として設定しています。

このガイドラインでは、環境に関する取り組みや環境負荷物質の管理を強化するため、IMDS（International Material Data System）の入力をお願いしています。ジャトコはこのIMDSデータを基にして製品に使われている環境負荷物質の管理と各種規制への適合性を確認しています。

ガイドラインに基づく取り組み

「サプライヤーCSR ガイドライン」および「グリーン調達ガイドライン」に、合意していただいたサプライヤーには、「合意確認書」の提出をお願いしています。

新規取引が発生した場合には、対象となるサプライヤーからの合意書の提出いただき、取引を開始しています。

新規部品に対しても、IMDSデータの入力を品質承認ステップの必須条項としています。このようにジャトコはさまざまなプロセスでサプライヤーみなさまと、ガイドラインに基づく取り組みを行っています。

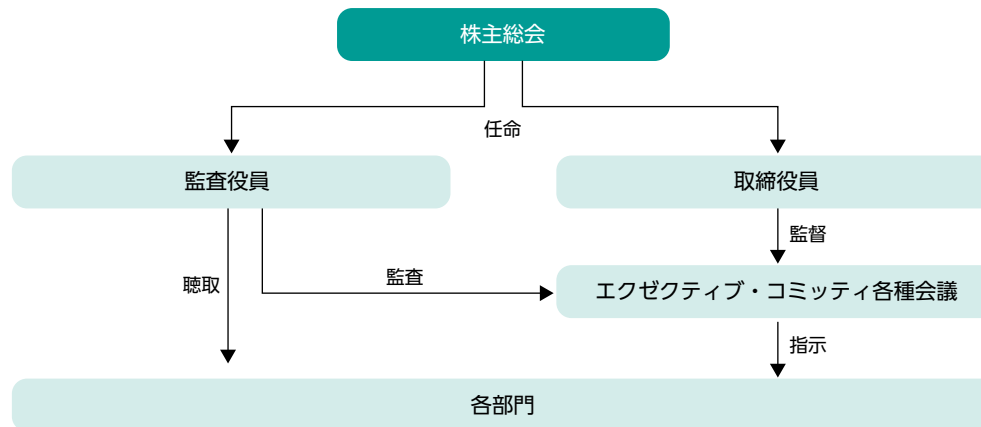
ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス



コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底

企業統治の体制

ジャトコは会社法上の監査役会設置会社となっており、株主総会、取締役会、監査役会を法定の機関として設置しています。取締役会は原則毎月一回開催し、経営にかかわる重要な事項の決定、業務執行の内容の監督を行っています。取締役会は、業務執行を行う取締役のほか、数名の社外取締役から構成されており、客観的に業務執行の状況を監督できる体制となっています。また、効率的・機動的に経営を行うため、執行役員制度を採用し、明確な形で執行役員に権限委譲を行ったうえで、事業を運営しています。



内部統制システムの強化

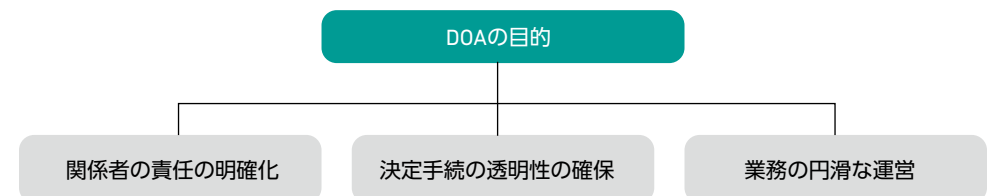
ジャトコは、適正かつ効率的な企業活動を確実なものとするため取締役会において決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき、内部統制の維持・強化を図っています。「内部統制システムの基本方針」では、主要項目として下記を定めており、内部統制システムが有効に機能しているか否かについては半年ごとに確認し、その結果を取締役に報告しています。

「内部統制システムの基本方針」の主要項目

- 取締役・社員の職務の執行の法令・定款への適合
- 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理
- 適切なリスクマネジメント
- 取締役の職務の効率的な執行
- 企業グループ（親会社および子会社）における職務の適正の確保
- 監査役の監査の実効性の確保等

重要な業務事項とその決定

重要な業務事項とその決定に関わる権限基準はDOA（Delegation of Authorityの略、権限委譲）にて定めています。DOA制定の目的は、関係者の責任の明確化、決定手続の透明性の確保、業務の円滑な運営です。



ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

コンプライアンスの強化

コンプライアンスの基本的な考え

ジャトコグループでは、各国・地域の法令を遵守することは、社会から信頼されるための最低限の条件であると考えています。また、法令遵守はもちろん、グループのすべての従業員が高い倫理観をもって公正で誠実に行動することも重要と考えています。ジャトコは「グローバル行動規範」を制定し、グループ内のすべての役員、従業員が守るべき行動指針を示し、コンプライアンスの徹底に努めています。

グローバル行動規範で定めている項目

1. 法律・ルールの遵守

ジャトコの社員は、事業活動を行う全ての国の法律、全ての会社のルールを遵守します。

2. 安全の推進

ジャトコは、従業員の安全と健康の促進に取り組んでいます。ジャトコの従業員は、健全な職場環境を維持促進するため安全に業務を遂行する必要があります。さらに、ジャトコはお客さまの安全を確保することに細心の注意を払っています。ジャトコの従業員は、製品の安全性を継続的に推進していくことが求められています。

3. 利益相反行為の禁止

社員にとって最も優先されるべきは、ジャトコの利益です。会社の利益に反して、行動・活動すること、あるいは情報を使用することは禁じられています。

4. 会社資産の保護

ジャトコの社員は、会社のあらゆる資産、資金、情報および知的財産を維持し、保護する責任があります。許可なくこれらを使用または流用することは禁じられています。

5. 公平・公正な関係

ジャトコの社員は、取引先（自動車会社、サプライヤー、その他の関係先等）と、公平かつ公正な関係を維持していかなければなりません。

6. 透明性と説明責任の確保

ジャトコの社員は、株主、お客さま、他の社員、地域社会等の関係者に対し、企業活動に係る情報を、公正性と透明性をもって、適時・適切に開示します。

7. 多様性の尊重と機会平等

ジャトコは社員、取引先、お客さま、および地域社会の多様性を評価・尊重します。また、差別やいやがらせは、どんな形・程度にせよ容認されるべきではありません。

8. 環境保護

ジャトコの社員は、製品を開発し、サービスを提供する際、事業目的の範囲内で環境保護を考慮しなければなりません。あわせてリサイクル・省資源・少エネルギーの推進に努めなければなりません。

9. 実践・報告の義務

ジャトコの社員は、この行動規範に従い、業務を遂行することを期待されています。また、行動規範の違反を察知した場合には、速やかにその旨を報告する義務を負っています。その際、当該社員は報復を受けることのないよう保護されます。

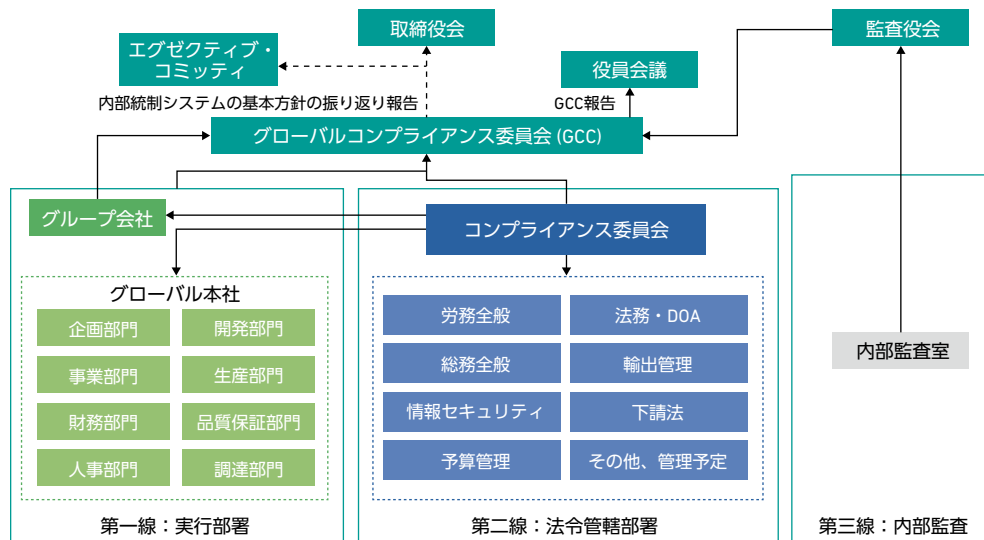
ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

コンプライアンスの強化

コンプライアンスの推進体制

ジヤトコグループのコンプライアンス活動は、法務知財部と人事総務部にて組織されるコンプライアンス事務局をセンターとして、①活動方針策定、②活動状況のモニタリング、③内部通報対応、④コンプライアンス教育・啓蒙を通じ、活動推進しています。また、コンプライアンス事務局は、各部門並びに各子会社にて任命されたコンプライアンスプロモーターと連携しながら個々の活動推進をサポートしています。

コンプライアンス体制の概要



ガバナンス

部門代表役員および国内外グループ会社社長を構成員とするグローバルコンプライアンス委員会 (GCC) を組織し、コンプライアンス事務局により年4回の会議を開催しています。GCCでは、コンプライアンスにかかわるグローバル共通事項の共有、具体的発生事案の共有、各社のコンプライアンス活動内容の確認などを行い、適切にPDCAを回すことに努めています。

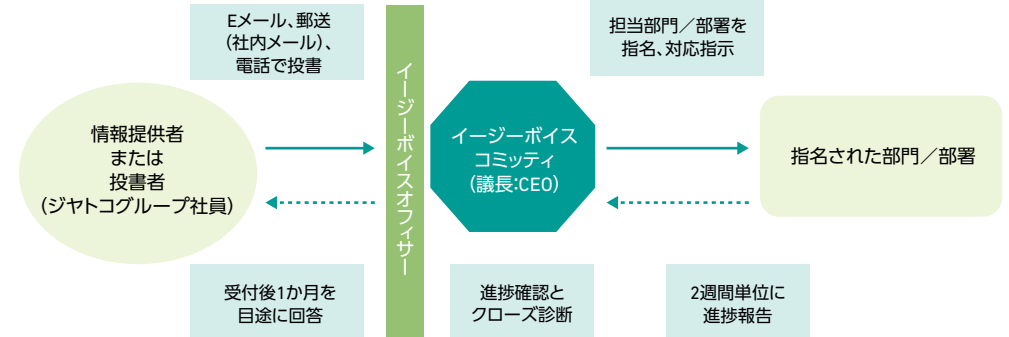
モニタリング

毎年、コンプライアンス総点検として第二線である法令管轄部署に対し、法令違反時の対応プロセスの確認等を実施し、活動状況のモニタリングを実施しています。

内部通報対応

ジヤトコグループでは、コンプライアンス違反行為などに関して従業員が直接会社に通報できる内部通報制度として社内にて対応する「イージーボイス」と、社外（日産グループ）の窓口による「SpeakUp」を設けており、従業員が通報できる環境を整えています。

イージーボイスシステムの概要



コンプライアンスの教育・啓蒙

グループの全従業員を対象に、e-ラーニングシステムを活用した行動規範教育を毎年行っています。行動規範教育の受講率は、グローバルコンプライアンス委員会の中で報告されており、毎年100%の実施率となるまでフォローアップがされています。

また、上記以外のコンプライアンス教育として、情報セキュリティ・ポリシー、ハラスメント、輸出入管理、独占禁止法、贈収賄防止・営業秘密、DOA、下請法、社則等について、第二線である法令管轄部署がプログラムを作成し、従業員に対する教育を実施しています。

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

リスクマネジメントへの取り組み

リスクマネジメントの推進

グローバルな事業展開に伴い多様化するリスクに対応するため、ジヤトコでは、内部統制の一環としてリスクマネジメントを実施しています。

具体的には、商品・生産・マーケティングの戦略、事業継続性、商品およびサービス・情報・マネジメントの品質、倫理および不正行為、人財、金融&市場リスク、外部環境変化に対する適応性、法務リスクの12項目について、役員含めた関係者にインタビューを実施し、年度ごとにリスクを洗い出し、エグゼクティブ・コミッティにおいて取り組むべき項目を決定し、項目ごとに任命された責任者のもと、リスク低減のための対策を立案・実行しています。各項目における取り組みの進捗は エグゼクティブ・コミッティに報告され、年度末に各項目のコントロールレベル 評価が行われます。

BCM*委員会による取り組み

地震・台風などの自然災害をはじめ事業の継続を危うくするような事態が発生するケースがあります。ジヤトコでは発生しうるさまざまなリスクを想定し、リスク発生の未然防止および発生時のリスク低減に向け、BCM 委員会を設けて対策を実行しています。生産の継続に影響を与える事態が実際に発生した場合は、ただちに関係者に周知され、BCM委員会が中心となり、全社の各部門の協力を得ながら問題の解決を図ります。

大規模地震発生時の初動の対応、早期復旧のための適切な対応に従業員が身に付けられるように、毎年BCMシミュレーション訓練を実施しています。

* BCM: Business Continuity Managementの略で、事業継続マネジメントのこと。大規模災害、病気の流行など、企業が事業を継続できなくなる事態に備え、対応策の決定やその実行、そのための訓練などを行うこと

グループ会社のリスクマネジメント体制

海外の生産拠点をはじめとするグループ会社についても、それぞれの会社で想定されるリスクに対する対策を実行するなどリスクマネジメントに取り組んでいます。BCMの活動で培われたジヤトコの経験やノウハウはグループ会社に展開され、グローバル共通のリスクについては他のグループ会社と連携をとりながらリスクマネジメントを実施しています。

コーポレートリスク管理のための年間計画	
役員インタビューなどによるリスク抽出	1月～2月
リスクアセスメントによる評価と課題候補の選定	2月
CRM* 課題定義と課題オーナーの決定 (エグゼクティブ・コミッティ)	3月～4月
中間報告：方策の方向性の合意	9月～10月
最終報告：方策実行の完了	3月

*CRM: Corporate Risk Management

ステークホルダーエンゲージメント



ステークホルダーとの対話

ジヤトコの企業活動はさまざまなステークホルダーのみなさまとの信頼の上に成り立っています。企業活動と社会要請の方向性を合わせるため、ステークホルダーの声や社会のニーズに十分に配慮しながら事業活動に取り組み、信頼関係を構築することが重要であると考えています。ステークホルダーの意見を理解し、事業活動に反映させることにより、自社の成長とよりよい社会の発展を両立させていきます。ジヤトコでは、より多くの声を理解し取り入れるために、ステークホルダーとの対話を図る機会を設けています。

お客さまのニーズの変化に対応し、安全・安心を第一に考えた商品やサービスを通して、独自の価値とお客さまの真の満足を追求します。

ビジネスパートナーのみなさまとも、相互信頼に基づいた公正な取引を通じて、互いの成長に向けて取り組んでいます。

また、多様性の尊重と人材育成を実践し、従業員一人ひとりが成長を実感できる働きがいのある職場づくりを目指しています。

ジヤトコが事業を展開するすべての地域において「よき企業市民」であるため、地域社会への継続的な貢献や、それぞれの地域に根ざしたコミュニケーション活動を行っています。

ステークホルダー	対話の機会	主なテーマ	主な取り組み
お客さま	日常事業活動でのコミュニケーション、方針説明会、企業サイト・SNS・メディア等を通じた情報提供、問い合わせ窓口の設置等	- 製品やサービスの品質 - お客さまへのサポート	- 方針説明会 - 技術説明会、試乗会 - お客さま要求事項への対応 - お客さまによる当社評価の分析・改善
従業員	社内通報制度、イントラネット、労使協議会、社員対象イベント、面談（評価、キャリア開発）、各種従業員対象調査等	- 会社の業績や課題 - 社内ダイバーシティ - 多様な働き方 - 職場環境・労働安全衛生 - キャリア、教育	- 社内通報制度（イージーボイス、スピークアップ） - 役員による全社員向け経営情報共有（Global Employees Meeting） - 役員との事業テーマ別意見交換会 - 業績評価面談 - 従業員サーベイ
ビジネスパートナー	日常事業活動でのコミュニケーション、方針説明会、お取引先様ウェブサイト、各種ガイドライン等	- 公正な取引 - 調達方針 - サステナビリティ方針 - 中期経営計画	- 取引先方針説明会 - 取引先表彰
地域社会	自治体・地域団体とのコミュニケーション、従業員による社会貢献活動、地域住民を交えたイベント等	- 地域社会への貢献 - 社会課題の解決に向けた自治体や地域団体との協働	- 従業員によるボランティア活動 - 地域住民を交えた事業所イベント（ジヤトコフェスタ）
株主	株主総会	ジヤトコの事業戦略、業績、企業価値向上	株主総会

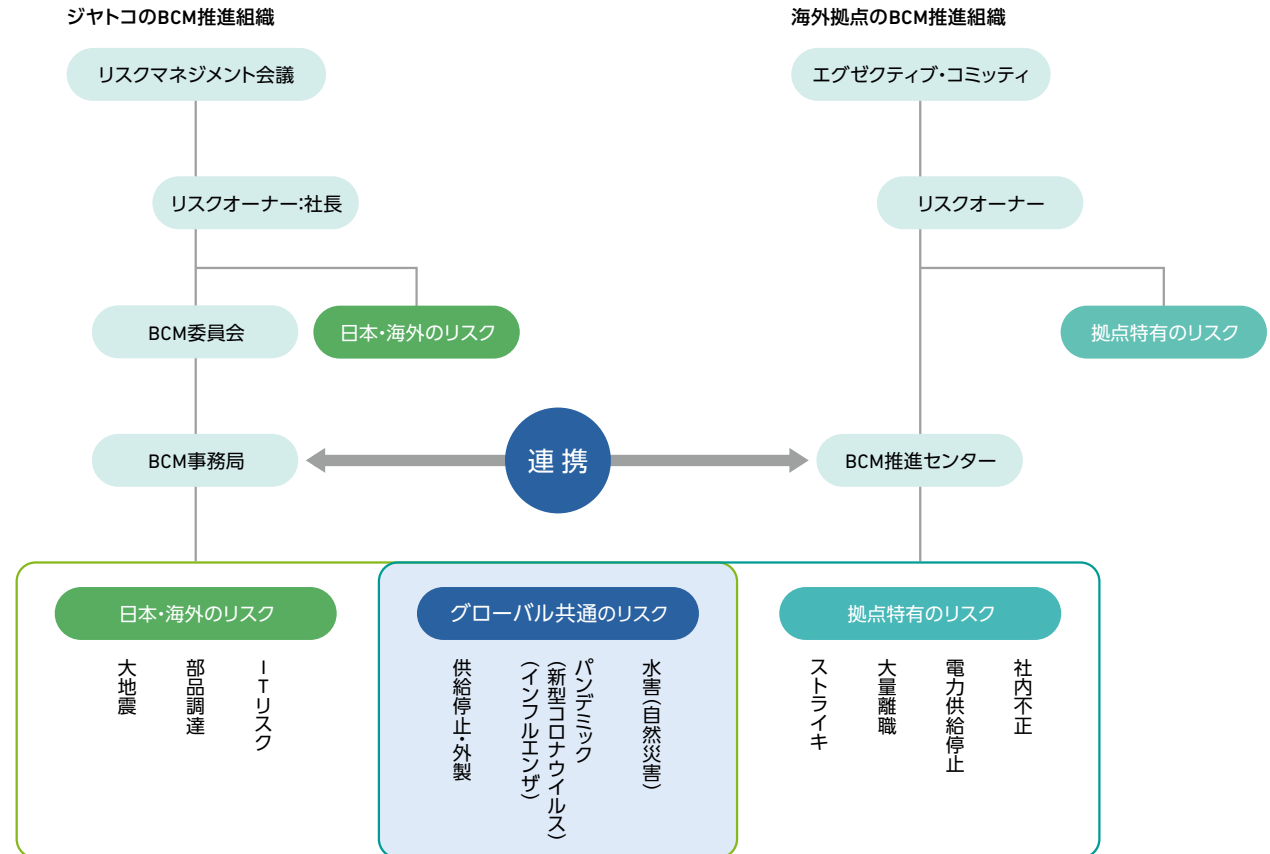
災害対策（物理的ハザード）



大規模災害発生時の事業継続に向けて

ジャトコのBCMの一環として、近い将来発生が懸念される大規模地震（震度6強以上）に対し、初動活動として人命救助、二次災害防止、また事業復旧活動として迅速かつ効果的な復旧を目標としたBCM活動を進めてきました。BCM構築の取り組みは新潟中越沖地震（2007年7月）、東日本大震災（2011年3月）、そして自工場に大きな被害をもたらした静岡県東部地震（2011年3月）等の経験を経て、見直し・強化されています。想定する災害も、地震はもちろん、新型コロナウイルス、IT障害、サプライチェーン供給停止と多岐にわたり、メキシコ、中国、タイ等の海外拠点が直面するリスクも日本国内のBCM整備で得られた経験を活用しジャトコグループ全体でグローバルに展開しています。さらに過去の災害からサプライチェーンを重視した活動を推進するために、各社にBCM体制診断等を通じ、サプライチェーン全体の強化にも努めています。ジャトコの実効性の高いBCMの原動力は繰り返し行われる訓練にあります。2008年以降、毎年BCMシミュレーション訓練を実施し、発災後の初動対応と事業継続への復旧体制を確認しています。この訓練は、想定される被害状況をもとに自動車メーカー・ビジネスパートナー対応、地域社会やメディア対応など、事業継続に関する課題を各部署・各拠点が連携して解決していくもので、このような訓練を繰り返し実施し、災害発生時の迅速な対応を目指しています。こうした拠点間連携を重視したシミュレーション訓練の成果は、静岡県東部地震での富士宮工場における各拠点からの円滑な支援受け入れと早期復旧となって具体的に現れています。

BCM推進組織



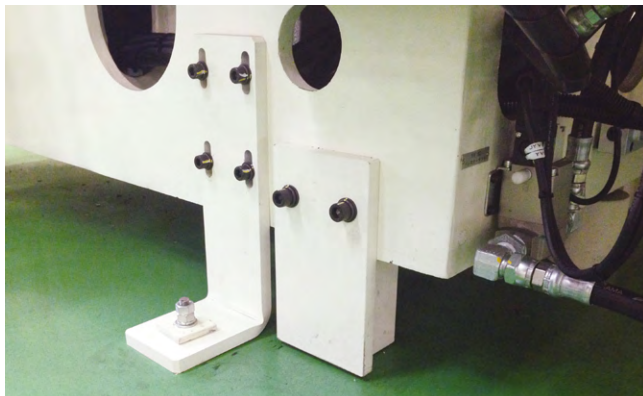
災害対策（物理的ハザード）

従業員・地域の安全を守るために

日本国内における建屋や設備の地震対策

大規模地震が発生した際の建屋・設備・従業員への被害を防ぎ、一日も早い工場機能の復旧を図ることができるよう、日本国内の主要生産拠点では建物の耐震補強や生産設備の固定、天井やクレーンからの落下物対策など、幅広い「地震対策」を実施しています。

サプライチェーンの一員として、お客さまの生産への影響を最小限にとどめるよう、常に対策を考えています。



新たに付加した設備の補助脚

海外拠点における地震対策

グローバルに展開しているジャトコの海外拠点においても、地震などの大規模災害に備え、国内拠点と同様のBCM活動を実施しています。

また、2013年7月に稼働開始したジャトコ タイランド社では、2011年に発生した大規模洪水の教訓から、建屋の基礎となる盛り土を当初計画から50cm高くし、津波・水害に備えました。

従業員の安全確保

大規模地震が発生した際に従業員の安全を確保するために、ジャトコでは避難場所や避難行動についての手順を細かく定めています。

また、その浸透を図るため、日中・夜間などさまざまな状況を想定し、定期的に訓練を実施しています。その他、非常時には各



盛り土を行った建築現場

拠点において帰宅が困難になる従業員が発生することを想定し、水や食料、ヘルメット、毛布、寝袋、非常用トイレなどの備品を備蓄しています。

地域住民の安全・安心を確保

地域社会とともに歩むジャトコとして、地域の暮らしにおける安全・安心の確保に積極的に協力しています。

大規模災害が発生した場合に避難場所のない地域住民の方々に社内施設を緊急避難場所として提供できるよう、自治体の避難場所リストに登録し、体制の整備を推進しています。



富士市の指定緊急避難場所・広域避難地に指定

情報セキュリティ



情報セキュリティの強化

情報セキュリティの推進体制

ジヤトコでは「情報セキュリティ・ポリシー」を制定し、情報セキュリティにかかわる適切な運用を図っています。

情報セキュリティ・ポリシーとは、ジヤトコの情報セキュリティに関する基本方針を網羅的に示したものであり、以下の通り、情報の機密性・完全性・可用性を維持することを目的に制定されています。

- 1) 機密性：アクセスを許可された者だけがアクセスできること
- 2) 完全性：情報の正確性を保ち、処理方法の正確性及び透明性を保つこと
- 3) 可用性：許可されたユーザーが、必要時に利用できること

これらが損なわれることにより、情報漏洩や誤った情報の公開、または情報が使えなくなるといった事態を引き起こすことがないよう、ジヤトコでは情報セキュリティ委員会を設置し、推進体制を構築しています。委員会を通じてグループ共通の課題や対策を共有し、各部門または各グループ会社の実行状況を確認しています。

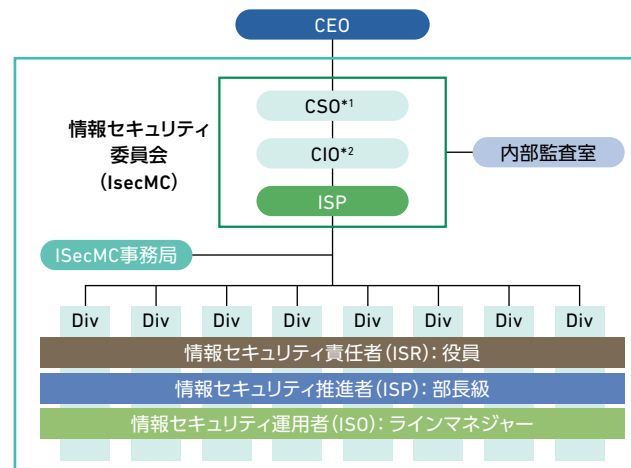
情報管理の徹底と教育・啓発活動を推進

成長戦略を維持するには、より堅固な情報セキュリティが必要になります。

ジヤトコは情報インフラのさらなる強化に努めています。

サイバー攻撃などに備えるため、外部からの攻撃を防ぐさまざまな技術的施策を実施するとともに、万一侵入を許した場合でも情報流出を防げるよう、情報管理を徹底しています。

情報セキュリティは、情報を取り扱う従業員一人ひとりの適正な管理意識にかかっていることから、各種の訓練を通じて、新たな脅威に対する情報漏洩のリスク低減を図ると共に、情報資産管理台帳を用いた情報資産の管理徹底、グループの全従業員を対象とした情報セキュリティに関する教育を定期的の実施するなど、継続的な管理意識の向上に努めています。



*1 CSO: Chief Security Officer *2 CIO: Chief Information Officer

各部門・グループ各社の情報セキュリティ活動

情報セキュリティを適切に運営していくためには、部門・会社の単位で、情報セキュリティに関する現状やリスクを正確に把握してから、対策を立案・実施し、結果をレビューするなど、PDCAサイクルを適切に回していくことが不可欠です。

各部門・各社における情報セキュリティにかかわる活動内容や発生したインシデント事案については、年3回行われる情報セキュリティ委員会で共有され、各部門・各社のベストプラクティスを互いに取り入れることで、グループ全体における情報セキュリティのより一層の充実を図っています。



生産拠点別環境データ

生産拠点別環境データ

富士地区

【本社含む】
敷地：580,440m²
建物（延べ）：
389,403m²



蒲原地区

敷地：78,423m²
建物（延べ）：
58,033m²



富士宮地区

敷地：67,698m²
建物（延べ）：
66,756m²



大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
小型ボイラー（22基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.007	0.0006
	NOx	ppm	100	46	27
	SOx	Nm ³ /h	0.002	0	0
金属加熱炉（17基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.016	0.007
	NOx	ppm	150	21	12
	SOx	Nm ³ /h	0.018	0	0
鋼材加熱炉（9基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.003	0.0010
	NOx	ppm	150	7	3
	SOx	Nm ³ /h	0.026	0	0
アルミ溶解炉（9基）	ばいじん	g/Nm ³	0.06	0.019	0.005
	NOx	ppm	150	43	9.81
	SOx	Nm ³ /h	0.019	0	0
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm ³	5	0.52	0.12
	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.028	0.022
乾燥炉（1基）	NOx	ppm	56	24	22
	SOx	Nm ³ /h	0.0048	0	0
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm ³	5	0.00000063	0.00000063
乾燥焼却炉（1基）	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm ³	5	0.00000044	0.00000044

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	7.3	7.2
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	8	5.5
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	9.3	7.3
浮遊物質（SS）	mg/L	20（10）	1	1
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	4	0	0
銅	mg/L	0.1	0	0
亜鉛	mg/L	1.0	0.09	0.07
大腸菌群数	個/mL	3,000	6	6
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0	0
ジクロロメタン	mg/L	0.02	0	0
ホウ素	mg/L	10	0.1	0.1
フッ素	mg/L	15	0	0
アンモニア性窒素	mg/L	100	1.7	1.4
硝酸性窒素			2.6	2.6
亜硝酸性窒素			2.84	1.605

大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
灯油ボイラー（2基）	ばいじん	g/Nm ³	0.1	0	0
	NOx	ppm	130	63	46
	SOx	Nm ³ /h	0.045	0	0

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	7.5	7.4
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	2	1.5
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	25（20）	2.9	2.45
浮遊物質（SS）	mg/L	40（30）	1	1
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	5	0	0
大腸菌群数	個/mL	1,000	12	8.0
ジクロロメタン	mg/L	0.02	0	0
ホウ素	mg/L	10	0	0
フッ素	mg/L	8	0	0
アンモニア性窒素	mg/L	100	0	0.0
硝酸性窒素			7.2	7.2
亜硝酸性窒素			0.06	0.06

大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
小型ボイラー（6基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.007	0.001166667
	NOx	ppm	100	92	76
	SOx	Nm ³ /h	0.01	0	0
金属加熱炉（3基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.016	0.00525
	NOx	ppm	150	72	33
	SOx	Nm ³ /h	0.01	0	0

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	7.4	7.3
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	3	2.5
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	2.6	1.9
浮遊物質（SS）	mg/L	20（15）	0	0
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	5	0	0
フェノール類	mg/L	5	0	0
銅	mg/L	3	0	0
亜鉛	mg/L	2	0.18	0.18
溶解性鉄	mg/L	10	0	0
溶解性マンガン	mg/L	10	0	0
クロム	mg/L	2	0	0
大腸菌群数	個/mL	3,000	0	0.0
1・1・1-トリクロロエタン	mg/L	0.001	0.001	0
ホウ素	mg/L	10	0	0
アンモニア性窒素			0.4	0.40
硝酸性窒素			0	0
亜硝酸性窒素			0.02	0

生産拠点別環境データ

掛川地区

敷地：95,522㎡
建物（延べ）：
14,954㎡



八木地区

敷地：233,323㎡
建物（延べ）：
68,277㎡



大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
小型ボイラー（2基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0	0.0000
	NOx	ppm	100	60	60
	SOx	Nm ³ /h	0.01	0	0

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（PH）	—	5.8～8.6	7.4	7.2
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	10	4.9
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	80（60）	14.2	9.9
浮遊物質（SS）	mg/L	20（10）	4	1.3
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	3	0	0
フェノール類	mg/L	2.5	0	0
銅	mg/L	0.5	0	0
亜鉛	mg/L	2	0.19	0.17
溶解性鉄	mg/L	5	0.76	0.45
溶解性マンガ	mg/L	5	0	0
クロム	mg/L	1	0	0
大腸菌群数	個/mL	3,000	125	25.5
カドミウム	mg/L	0.03	0	0
シアン	mg/L	0.5	0	0
有機磷	mg/L	1	0	0
鉛	mg/L	0.1	0	0
六価クロム	mg/L	0.25	0	0
砒素	mg/L	0.1	0	0
総水銀	mg/L	0.0005	0	0
アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.001	0	0
トリクロロエチレン	mg/L	0.1	0	0
テトラクロロエチレン	mg/L	0.05	0	0
四塩化炭素	mg/L	0.01	0	0
1・1・1-トリクロロエタン	mg/L	1	0	0
ホウ素	mg/L	10	0	0
アンモニア性窒素	mg/L	100	9.6	6.05
硝酸性窒素				
亜硝酸性窒素				

大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	2021年度 実測値		2022年度 実測値	
				最大	平均	最大	平均
小型ボイラー	ばいじん	g/Nm ³	0.1	ND	ND	ND	ND
	NOx	ppm	150	51	41	50	37
	SOx	Nm ³ /h	0.00	ND	ND	ND	ND
連続浸炭路	ばいじん	g/Nm ³	0.1	ND	ND	ND	ND
	NOx	ppm	150	63	43	66	67
	SOx	Nm ³ /h	5.00	ND	ND	ND	ND

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値 (協定値含)	2021年度 実測値		2022年度 実測値	
			最大	平均	最大	平均
水素イオン濃度（PH）	—	5.8～8.6	7.5	7.4	7.5	7.2
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（10）	2	1.5	3	1.3
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	30（20）	1.1	0.8	2.9	1.3
浮遊物質（SS）	mg/L	30（20）	0.8	0.5	3.8	0.8
n-ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	2.5	不検出	不検出	不検出	不検出
フェノール類	mg/L	0.5	不検出	不検出	不検出	不検出
銅	mg/L	1.5	不検出	不検出	不検出	不検出
亜鉛	mg/L	2.5	不検出	不検出	不検出	不検出
溶解性鉄	mg/L	5	不検出	不検出	不検出	不検出
溶解性マンガ	mg/L	5	不検出	不検出	不検出	不検出
クロム	mg/L	1	不検出	不検出	不検出	不検出
大腸菌群数	個/mL	1,500	不検出	不検出	不検出	不検出
窒素	mg/L	16（12）	9.6	9.2	9.6	7.6
ニッケル	mg/L	1	不検出	不検出	不検出	不検出
燐	mg/L	1（0.5）	不検出	不検出	不検出	不検出
ホウ素	mg/L	10	0	0	0	0
フッ素	mg/L	7.5	0	0	0	0

生産拠点別環境データ

ジャトコ
メキシコ社

大気

NOx：窒素酸化物

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
金属加熱炉	ばいじん	g/Nm ³	1,022.5	0.31986	0.05308
	NOx	ppm	—		
アルミ溶解炉	ばいじん	g/Nm ³		0.1	0.1
	NOx	ppm	375.0	72.6	40.9
金属加熱炉	ばいじん	g/Nm ³	1,113.8	0.97900	0.31006
	NOx	ppm	—		

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度 (pH)	—	5-10	7.6	7.1
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/L	150	67.0	63.0
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	320	145.6	81.3
浮遊物質 (SS)	mg/L	150	34.2	19.9
n-ヘキサン抽出物質 (鉱油類)	mg/L	15	7.0	5.5
フェノール類	mg/L	n/a	0.0	#DIV/0!
銅	mg/L	4	0.2	0.2
亜鉛	mg/L	10	0.2	0.2

ジャトコ
(広州)
自動変速機
有限公司

大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉	TSP	mg/m ³	120	2.9	1.4
	非メタン炭化水素	mg/m ³	120	3.02	2.1
加工ライン	TSP	mg/m ³	120	1.6	1.4
	非メタン炭化水素	mg/m ³	—	—	—

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度 (pH)	—	6.0-9.0	7.9	7.4
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/L	300	48	28
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	500	423	139.0
浮遊物質 (SS)	mg/L	400	136	95
n-ヘキサン抽出物質 (鉱油類)	mg/L	20	0.33	0.18

ジャトコ
(蘇州)
自動変速機
有限公司ジャトコ
タイランド社

大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉 No.1	TSP	mg/m ³	400	1.42	—
真空浸炭炉 No.2	TSP	mg/m ³	400	0.61	—

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度 (pH)	—	5.5-9.0	7.80	7.57
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/L	500	38	26.80
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	750	159	95.5
浮遊物質 (SS)	mg/L	200	51	19.44
n-ヘキサン抽出物質 (鉱油類)	mg/L	10	5.53	3.20

大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉	TSP	mg/m ³	120	1.9	1.8
	非メタン炭化水素	mg/m ³	60	2.3	1.1
加工ライン	TSP	mg/m ³	120	19.6	13.4
	非メタン炭化水素	mg/m ³	60	8.9	7.1

水質

項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度 (pH)	—	6.0-9.0	7.9	7.3
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/L	300	—	—
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	500	492	250.0
浮遊物質 (SS)	mg/L	400	365	76.5
n-ヘキサン抽出物質 (鉱油類)	mg/L	100	54	16



GRI スタンドード対照表

GRIスタンダード対照表

■ GRI 1：基礎

利用に関する声明	ジャトコでは、サステナビリティに関わる報告について、「GRI サステナビリティ・リポーティング・スタンダード」を参考にしています。以下の表は同ガイドラインの開示要請項目に関連した活動を紹介するものです。(2023年12月現在)
利用した GRI	GRI 1：基礎 2021

■ GRI 2：一般開示事項 2021

開示事項		掲載箇所	ページ
1. 組織と報告実務			
2-1	組織の詳細	企業情報	P.6
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	編集方針	P.2
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	編集方針	P.2
2-4	情報の修正・訂正記述	—	
2-5	外部保証	—	
2. 活動と労働者			
2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	—	
2-7	従業員	社会性データ	P.64
2-8	従業員以外の労働者	—	
3. ガバナンス			
2-9	ガバナンス構造と構成	コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底	P.67
2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底	P.67
2-11	最高ガバナンス機関の議長	コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底	P.67
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底	P.67
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底	P.67
2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	ジャトコのサステナビリティ	P.12
2-15	利益相反	コンプライアンスの強化	P.68
2-16	重大な懸念事項の伝達	リスクマネジメントへの取り組み	P.70
2-17	最高ガバナンス機関の集会的知見	—	
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底	P.67

開示事項			掲載箇所	ページ
	2-19	報酬方針	—	
	2-20	報酬の決定プロセス	—	
	2-21	年間報酬総額の比率	—	
4. 戦略、方針、実務慣行				
	2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	CEOメッセージ	P.3-4
	2-23	方針声明	企業理念	P.7
			サステナビリティ基本方針	P.12
			環境マネジメント	P.15
			製品安全および品質の方針・考え方	P.60
	2-24	方針声明の実践	サステナビリティ基本方針	P.12
			環境マネジメント	P.15
			製品安全および品質の方針・考え方	P.60
	2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	人権に対する取り組み コンプライアンスの強化	P.64 P.68
	2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	コンプライアンスの強化	P.68
	2-27	法規制遵守	コンプライアンスの強化	P.68
	2-28	会員資格を持つ団体	—	
5. ステークホルダー・エンゲージメント				
	2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	ステークホルダーエンゲージメント	P.71
	2-30	労働協約	社会性データ	P.64

■ GRI 3：マテリアルな項目2021

開示事項			掲載箇所	ページ
1. マテリアルな項目に関する開示事項				
	3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	課題特定のプロセス	P.13
	3-2	マテリアルな項目のリスト	マテリアリティ（重要課題）	P.13
	3-3	マテリアルな項目のマネジメント	ジャトコのサステナビリティ	P.12
			マテリアリティ（重要課題）	P.13
			持続可能な地球環境への貢献	P.14-39
			ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上	P.51-58
			誠実な経営と事業基盤	P.59-74

■ GRIスタンダード（項目別）

	開示事項	掲載箇所	ページ
201 経済パフォーマンス2016	201-1 創出、分配した直接的経済価値	価値創造のあゆみ リマニユファクチャリング体制	P.8 P.34
	201-2 気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	—	
	201-3 確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	—	
	201-4 政府から受けた資金援助	—	
202 地域経済での存在感2016	202-1 地域最低賃金に対する標準新人給与の比率（男女別）	—	
	202-2 地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	—	
203 間接的な経済的インパクト2016	203-1 インフラ投資および支援サービス	生物多様性に配慮した活動の実施 社会貢献活動	P.39 P.49
	203-2 著しい間接的な経済的インパクト	—	
204 調達慣行2016	204-1 地元サプライヤーへの支出の割合	—	
205 腐敗防止2016	205-1 腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	コンプライアンスの強化	P.68-69
	205-2 腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	コンプライアンスの強化	P.68-69
	205-3 確定した腐敗事例と実施した措置	—	
206 反競争的行為2016	206-1 反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	—	
207 税務2019	207-1 税務へのアプローチ	—	
	207-2 税務ガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	—	
	207-3 税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	—	
	207-4 国別の報告	—	
301 原材料2016	301-1 使用原材料の重量または体積	マテリアルバランス	P.19
	301-2 使用したリサイクル材料	循環型社会の構築	P.30-34
	301-3 再生利用された製品と梱包材	循環型社会の構築	P.30-34
302 エネルギー2016	302-1 組織外のエネルギー消費量	マテリアルバランス PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷低減	P.19 P.21
	302-2 組織外のエネルギー消費量	脱炭素化の推進	P.22
		物流での取り組み	P.25

	開示事項	掲載箇所	ページ
	302-3 エネルギー原単位	PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減	P.21
	302-4 エネルギー消費量の削減	マテリアルバランス	P.19
	302-5 製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減 カーボンニュートラルへの取り組み エネルギー効率追求	P.21 P.22 P.43
303 水と排水2018	303-1 共有資源としての水との相互作用	循環型社会の構築	P.30-34
	303-2 排水に関連するインパクトのマネジメント	大気・水資源・土壌保全	P.35-37
	303-3 取水	マテリアルバランス	P.19
	303-4 排水	マテリアルバランス	P.19
	303-5 水消費	マテリアルバランス PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減 大気・水資源・土壌保全	P.19 P.21 P.35
304 生物多様性2016	304-1 保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	生物多様性に配慮した活動の実施	P.39
	304-2 活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	—	—
	304-3 生息地の保護・復元	生物多様性に配慮した活動の実施	P.39
	304-4 事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	—	—
305 大気への排出2016	305-1 直接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ1）	カーボンニュートラルへの取り組み	P.22
	305-2 間接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ2）	カーボンニュートラルへの取り組み	P.22
	305-3 その他の間接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ3）	—	—
	305-4 温室効果ガス（GHG）排出原単位	PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減	P.21
	305-5 温室効果ガス（GHG）排出量の削減	2022年度の環境実績 カーボンニュートラルへの取り組み	P.18 P.22
	305-6 オゾン層破壊物質（ODS）の排出量	—	—
	305-7 窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）、およびその他の重大な大気排出物	化学物質の管理活動 生産拠点別環境データ	P.37 P.76-78

		開示事項	掲載箇所	ページ
306	廃棄物2020	306-1 廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	廃棄物削減活動	P.33
		306-2 廃棄物関連の著しいインパクトの管理	化学物質の管理活動	P.37
		306-3 発生した廃棄物	廃棄物削減活動	P.33
			化学物質の管理活動	P.37
		306-4 処分されなかった廃棄物	廃棄物削減活動	P.33
		306-5 処分された廃棄物	廃棄物削減活動	P.33
307	環境コンプライアンス2016	307-1 環境法規制の違反	PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減	P.21
308	サプライヤーの環境面のアセスメント2016	308-1 環境基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.65-66
		308-2 サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	物流での取り組み	P.25
	サプライチェーンでのガイドライン		P.66	
401	雇用2016	401-1 従業員の新規雇用と離職	社会性データ	P.64
		401-2 正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	—	
		401-3 育児休暇	社会性データ	P.64
402	労使関係2016	402-1 事業上の変更に關する最低通知期間	—	
403	労働安全衛生2018	403-1 労働安全衛生マネジメントシステム	労働安全衛生	P.56-58
		403-2 危険性(ハザード)の特定、リスク評価、事故調査	労働安全衛生	P.56-58
		403-3 労働衛生サービス	労働安全衛生	P.56-58
		403-4 労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	労働安全衛生	P.56-58
		403-5 労働安全衛生に関する労働者研修	労働安全衛生	P.56-58
		403-6 労働者の健康増進	労働安全衛生	P.56-58
		403-7 ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と緩和	労働安全衛生	P.56-58
		403-8 労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	労働安全衛生	P.58
		403-9 労働関連の傷害	—	
		403-10 労働関連の疾病・体調不良	—	
404	研修と教育2016	404-1 従業員一人あたりの年間平均研修時間	—	
		404-2 従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	人財育成	P.53-55
		404-3 業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	人財育成	P.53-55

	開示事項	掲載箇所	ページ
405 ダイバーシティと機会均等2016	405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	ダイバーシティ&インクルージョン	P.52
		コーポレートガバナンス・法令遵守の徹底	P.67
	405-2 基本給と報酬総額の男女比	—	
406 非差別2016	406-1 差別事例と実施した救済措置	—	
407 結社の自由と団体交渉2016	407-1 結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	—	
408 児童労働2016	408-1 児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	
409 強制労働2016	409-1 強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	
410 保安慣行2016	410-1 人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—	
411 先住民族の権利2016	411-1 先住民族の権利を侵害した事例	—	
412 人権アセスメント2016	412-1 人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	—	
	412-2 人権方針や手順に関する従業員研修	人権	P.64
	412-3 人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約	—	
413 地域コミュニティ2016	413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	コミュニティの発展 社会貢献活動	P.48 P.49-50
	413-2 地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在的、潜在的）を及ぼす事業所	—	
414 サプライヤーの社会面のアセスメント2016	414-1 社会的基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.65-66
	414-2 サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	信頼される品質 持続可能で責任ある調達	P.60-63 P.65-66
415 公共政策2016	415-1 政治献金	—	
416 顧客の安全衛生2016	416-1 製品およびサービスのカテゴリに対する安全衛生インパクトの評価	信頼される品質	P.60-63
	416-2 製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	—	
417 マーケティングとラベリング2016	417-1 製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	信頼される品質	P.60-63
	417-2 製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	—	
	417-3 マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—	
418 顧客プライバシー2016	418-1 顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	情報セキュリティ	P.74
419 社会経済面のコンプライアンス2016	419-1 社会経済分野の法規制違反	コンプライアンスの強化	P.68-69

Jatco